

集中非常リモコン

品番 **WR-855**

取扱説明書

(工事説明付)

この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付



このたびは、パナソニック 集中非常リモコンをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。

もくじ

取扱説明	
安全上のご注意	2
使用上のお願い	3
概要	4
表示カードの記入方法	4
非常放送の概要	5
各部の名前と働き	6 ~ 10
非常放送のしかた	11
非常放送のしかた(1)・(2)火災感知器より	12 ~ 13
非常放送のしかた(3)・(4)発信機・非常電話より	14 ~ 15
非常放送のしかた(5)・(6)手動起動	16 ~ 17
業務放送のしかた	18
アナウンスユニットからの放送のしかた	19
相互通話のしかた	20
日常点検	21 ~ 23
非常操作ユニット・非常リモコン ソフトウェアのバージョンアップについて	24
工事説明	
設置上のお願い	25
接続のしかた	26 ~ 27
アナウンスユニットの接続のしかた	28
集中非常リモコンシステムについて	29 ~ 31
ロータリースイッチ、ディップスイッチの設定	32 ~ 33
集中非常リモコンのユニット接続	34 ~ 35
定格・付属品	36
保証とアフターサービス	裏表紙

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

必ず販売店に依頼してください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

修理や点検は販売店にご連絡ください。

定期的に点検する



非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。

点検は、販売店や保守契約業者に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災の原因となります。

ただちに分電盤の電源を切って、販売店にご連絡ください。

決められたヒューズを使う



規定以外のヒューズを使うと、火災の原因となります。

取り付けねじは、しっかりとしめる



落下などで、けがの原因となります。

必ず販売店に依頼してください。

周囲に物を置かない



禁止

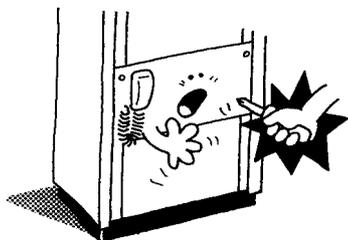
非常時の操作の妨げ
になり、火災、災害
の拡大の原因となり
ます。

指定範囲は常に整理、整頓して
ください。

使用上のお願い

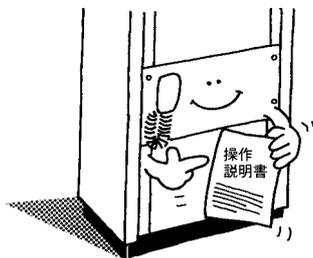
工事は販売店に

本機を移動する場合は工事が
必要です。必ず販売店に
ご連絡ください。また、こ
の商品は認定品ですから絶
対に改造しないでください。



操作説明書は本機の近く に置いてください。

非常時に確実に操作できる
よう操作説明書を本機の近
くに置いてください。

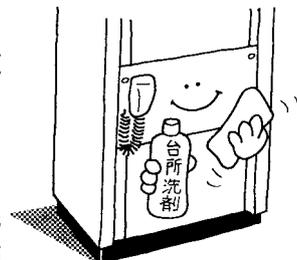


お手入れについて

分電盤の電源を切り、乾
いた柔らかい布でふいて
ください。

ほこりがとれにくいときは、
水で薄めた台所用洗剤（中性）
を柔らかい布にしみ込ませ、
固く絞ってから軽くふいて
ください。そのあと、乾いた
柔らかい布で洗剤成分を完
全にふき取ってください。
ベンジンやシンナーなど揮
発性のものは使用しないで
ください。

化学ぞうきんをご使用の
際は、その注意書きに従
ってください。

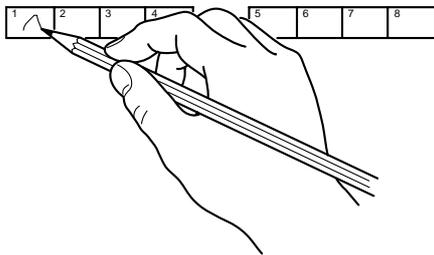


概要

- 本機は、棟別非常リモコンWR-856, 増設用非常操作ユニットWK-810A, 820A, インタフェースユニットWU-R855と組み合わせて使用する集中非常リモコンです。
- 音声警報ラック型防災アンプシステム160局の本体を最大8棟まで集中制御できます。
- 10/20局単位で最大16ユニット、最大320局まで増設できます。
- 各棟の放送状態、異常状態をモニタ、表示することができます。
- 操作手順を音声と液晶パネルによる文字表示でガイドする簡単操作です。
- 本機は、ラックマウント専用です。

表示カードの記入方法

カードカバーを外します。
表示カードに非常放送設備を設置した棟の名称や、
非常放送区域などを記入します。



記入後は、カードカバーをもとの位置にはめ込みます。

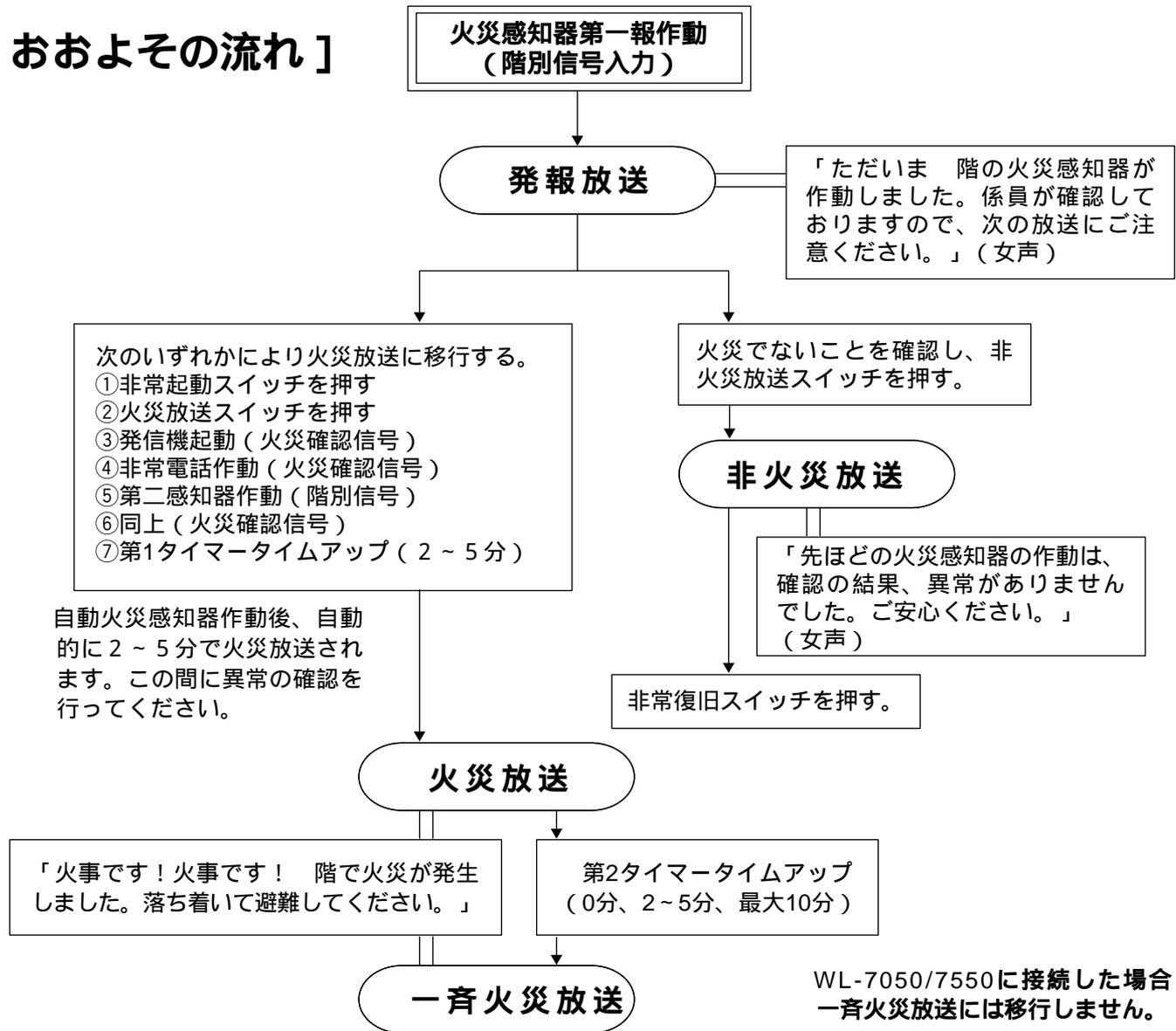
非常放送の概要

非常用放送設備は、火災発生時に音声警報を自動的に放送します。

起動方式により操作方法（動作）が異なります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。

マイク放送は音声警報より優先して放送されます。

[おおよその流れ]

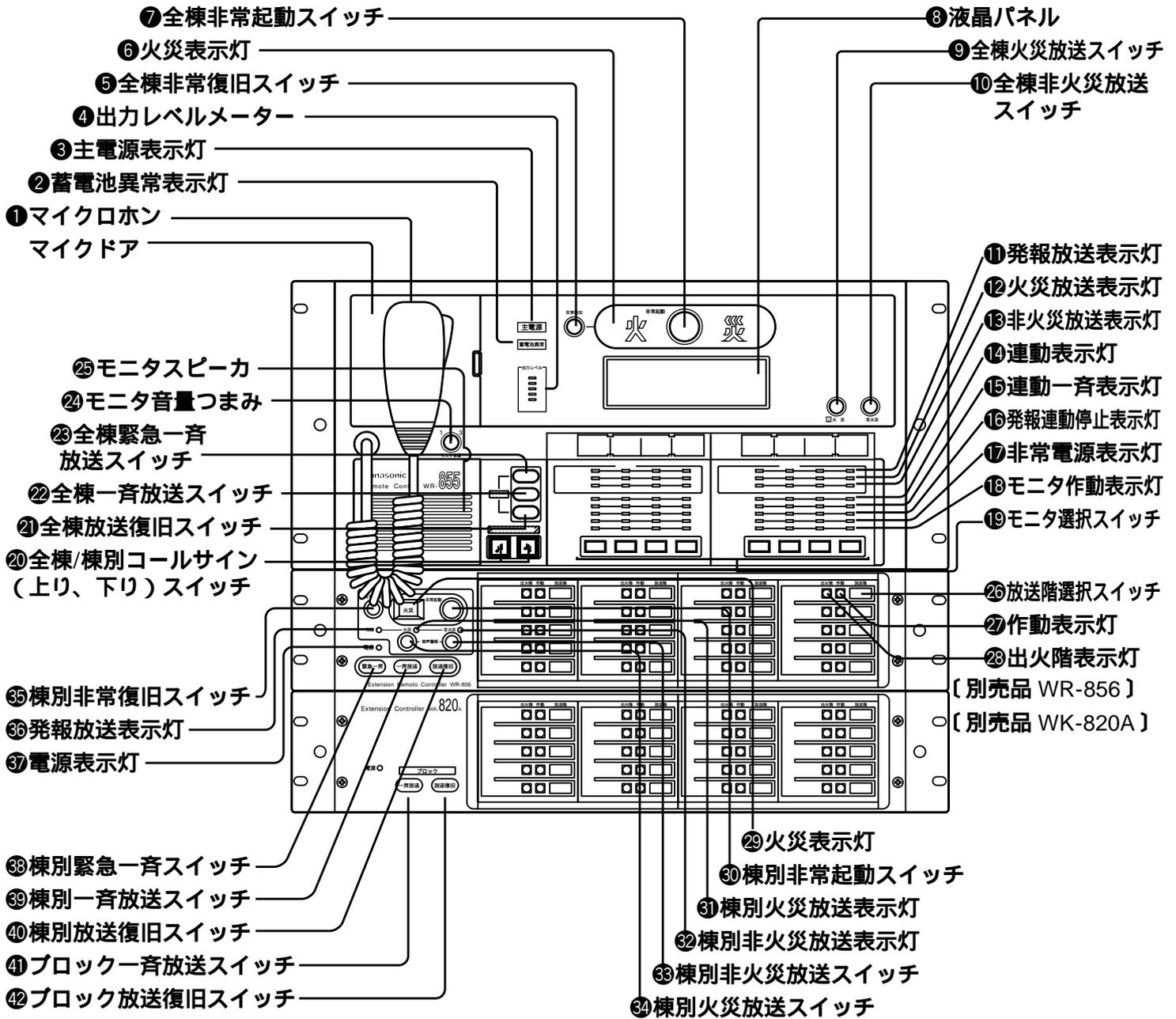


- はじめに火災報知設備より出力された信号を第一報、その次の信号を第二報といいます。
- 階別信号とは、自動火災感知器が火災を感知したことを知らせるため自動火災報知設備から出力される信号です。
- 火災確認信号とは、火災が確定された際に、火災報知設備から出力される信号です。
- 第1タイマータイムアップとは、階別信号受信後、設定した時間（2～5分）が経過すると自動的に火災放送に移行することです。
- 第2タイマータイムアップとは、火災放送が出火階、連動階に放送開始された後、設定した時間が経過すると自動的に全館への一斉火災放送に移行することです。（WL-7050A/7550A接続時）

ご注意

この流れは、発報連動停止スイッチの設定が連動になっている場合のものです。詳細手順については11ページ以降を参照してください。

各部の名前と働き



各部の名前と働き

用語の説明

非常放送：消防法で定める非常用放送設備による火災発生時の放送を指します。

業務放送：一般の呼び出し、連絡、BGMなどの放送を指します。

連動一斉：自動火災感知器と連動し、自動火災感知器動作時に自動的に全館一斉に非常放送できる状態になります。

連動：自動火災感知器と連動し、自動火災感知器動作時に自動的に出火階と連動階に、階別非常放送できる状態になります。

発報連動停止：自動火災感知器動作時に発報放送をしないで、本機のブザーが鳴ります。

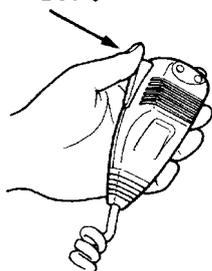
手動起動：非常起動スイッチを押し、放送選択スイッチ・緊急一斉放送スイッチまたは一斉放送スイッチを押すと、非常放送されます。

①非常、一般業務放送兼用マイクロホン

- マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。

スイッチを押し

- マイクで業務放送中に非常放送になった場合、マイクでの放送は遮断され、非常放送が優先されます。再度マイクで放送するときは、スイッチを一度離してください。



②蓄電池異常表示灯（赤色）[蓄電池異常]

- 蓄電池点検時、集中非常リモコンに接続した非常電源ユニットの蓄電池が異常のときに点灯します。

③主電源表示灯（緑色）[主電源]

- 常用電源（AC100V）が使用されているとき、緑色に点灯します。
- 非常電源（DC24V）動作時も点灯します。

④出力レベルメーター [出力レベル]

- 集中非常リモコンからの音の出力レベルを表示します。

⑤全棟非常復旧スイッチ [非常復旧]

- 非常放送状態でこのスイッチを押すと全棟の非常放送状態を終了します。

⑥火災表示灯（赤色）

- 全棟非常起動スイッチ⑦または、棟別非常起動スイッチ⑩を押したときに点灯します。ただし、第1タイマー作動中は点滅します。
- 自動火災感知器からの非常起動により、点灯または点滅します。

⑦全棟非常起動スイッチ [非常起動]

- 手動で全棟に非常放送するときはこのスイッチを押してください。このときは、定められたタイマー時間で、自動的に火災放送に移行します。

⑧液晶パネル

- 非常放送時の操作指示、異常時の表示、動作状態などを表示します。



⑨全棟火災放送スイッチ [火災放送]

- 非常放送時にこのスイッチを押すと火災放送表示（赤色）が点灯し、非常放送状態の本体に火災放送が放送されます。

⑩全棟非火災放送スイッチ [非火災放送]

- 非常放送時にこのスイッチを押すと非火災放送表示（緑色）が点灯し、非常放送状態の本体に非火災放送が放送されます。

⑪発報放送表示灯（オレンジ色）[発報]

- 各棟の発報放送状態を表示します。発報放送時に点灯します。

⑫火災放送表示灯（赤色）[火災]

- 各棟の火災放送状態を表示します。火災放送時に点灯します。

⑬非火災放送表示灯（緑色）[非火災]

- 各棟の非火災放送状態を表示します。非火災放送時に点灯します。

⑭連動表示灯（赤色）[連動]

- 各棟の非常用放送設備が「連動」に設定されているとき点灯します。点灯中に、自動火災感知器動作時は、非常放送を出火階、連動階に放送します。

⑮連動一斉表示灯（赤色）[連動一斉]

- 各棟の非常用放送設備が「連動一斉」に設定されているとき点灯します。点灯中に、自動火災感知器動作時は、非常放送を一斉に放送します。

各部の名前と働き

⑩発報連動停止表示灯(赤色)[発報連動停止]

- 各棟の非常用放送設備が「発報連動停止」に設定されているとき点灯します。

⑪非常電源表示灯(正常:緑色/異常:赤色)非常電源]

- 各棟の非常電源ユニット内の蓄電池が正常のときは緑色、異常のときは赤色に点灯します。
- 異常(赤色)のときには、集中非常リモコンまたは、対応する非常操作ユニットのマイクドア内にある蓄電池点検スイッチを押して、蓄電池点検をしてください。(23ページ参照)

⑫モニタ作動表示灯(緑色)[作動]

- モニタ選択スイッチを押すと点灯します。
- 通信異常、スピーカ回線短絡、蓄電池異常、本体停電などの異常のときは点滅します。

⑬モニタ選択スイッチ[モニタ選択]

- モニタを行う棟を選択するときに押します。

⑭全棟/棟別コールサインスイッチ

- 放送したい場所の放送階選択スイッチを押した後に、コールサインスイッチを押すと、コールサインが鳴ります。放送の前後に押してください。

 上り4音

 下り4音

⑮全棟放送復旧スイッチ[放送復旧]

- 放送が終了したら、押してください。全棟の放送階選択が解除されます。

⑯全棟一斉放送スイッチ[一斉放送]

- 全棟に一斉放送するときに押します。
- アッテネータ(音量調整器)付スピーカをご使用のときは、アッテネータが「OFF」のときは放送することができません。

⑰全棟緊急一斉放送スイッチ[緊急一斉]

- 全棟に一斉放送するときに押します。
- アッテネータ(音量調整器)付スピーカをご使用のときは、アッテネータが「OFF」のときでも放送することができます。(但し、3線式配線の場合)

⑱モニタ音量つまみ[モニタ音量]

- モニタスピーカの音量を3段階に調節します。

⑲モニタスピーカ

- 放送状態をモニタできます。マイクのスイッチを押すとモニタスピーカの音が減衰するので、ハウリングは起こりません。

⑳放送階選択スイッチ[放送階]

- 放送したいブロック(部屋、エリア)または階の選択スイッチを押します。(作動表示灯⑰点灯)

㉑作動表示灯(緑色)[作動]

- 放送階選択スイッチ⑰を押すと点灯します。
- 棟別一斉放送スイッチ⑲、棟別緊急一斉スイッチ⑲を押すと、対応する棟の非常用放送設備すべての作動表示灯が点灯します。
- 全棟一斉放送スイッチ⑯、全棟緊急一斉放送スイッチ⑰を押すと、全ての非常用放送設備の作動表示灯が点灯します。
- 非常時に、出火階または連動階の作動表示灯が点灯します。
- スピーカ回線が短絡すると、短絡した階の作動表示灯が点滅します。このときは、販売店または、保守契約店にご連絡ください。

㉒出火階表示灯(赤色)[出火階]

- 自動火災感知器が起動したとき点灯し、出火階を表示します。
- ひとつの階に複数の放送エリアがあるときは、その階のすべての出火階表示灯が点灯します。

ご注意

増設用業務操作ユニットとして使用する場合は、出火階表示灯(赤色)は点灯しません。作動表示灯⑰だけの業務用記名シート(付属品)と交換してください。

㉓火災表示灯(赤色)[火災]

- 棟別非常起動スイッチ⑳を押したとき点灯します。ただし、非常操作ユニットのタイマー作動中は点滅します。
- 自動火災感知器・発信機または非常電話からの起動により、点灯または点滅します。

㉔棟別非常起動スイッチ[非常起動]

- 対応する棟の非常用放送設備を手動で非常放送するとき押します。

㉕棟別火災放送表示灯(赤色)

- 火災放送時に点灯します。

㉖棟別非火災放送表示灯(緑色)

- 非火災放送時に点灯します。

㉗棟別非火災放送スイッチ[非火災]

- 対応する棟の非常用放送設備が非常放送状態のとき押すと、非火災放送表示灯⑳(緑色)が点灯し、非火災放送されます。

㉘棟別火災放送スイッチ[火災]

- 対応する棟の非常用放送設備が非常放送状態のとき押すと、火災放送表示灯㉕(赤色)が点灯し、火災放送されます。

㉙棟別非常復旧スイッチ[非常復旧]

- 対応する棟の非常用放送設備が非常放送状態のとき押すと、非常放送状態を終了します。

各部の名前と働き

③⑥ 発報放送表示灯 (オレンジ)

- 発報放送時に点灯します。

③⑦ 電源表示灯 (赤色)

- 通電状態のとき、点灯します。

③⑧ 棟別緊急一斉スイッチ [緊急一斉]

- 対応する棟の非常用放送設備に一斉放送するとき押します。
- アッテネータ (音量調整器) が「OFF」のときでも放送できます。(ただし、3線式配線の場合)

③⑨ 棟別一斉放送スイッチ [一斉放送]

- 対応する棟の非常用放送設備に一斉放送するとき押します。
- アッテネータ (音量調整器) が「OFF」のときは放送できません。

④⑩ 棟別放送復旧スイッチ [放送復旧]

- 対応する棟の非常用放送設備への放送終了後に押してください。対応する棟の非常用放送設備すべての作動表示灯が消灯します。

④① ブロッカー一斉放送スイッチ [ブロッカー一斉放送]

- 増設ユニット毎 (10局または20局単位) に一斉放送するとき押します。(ユニットの作動表示灯はすべて点灯します。)

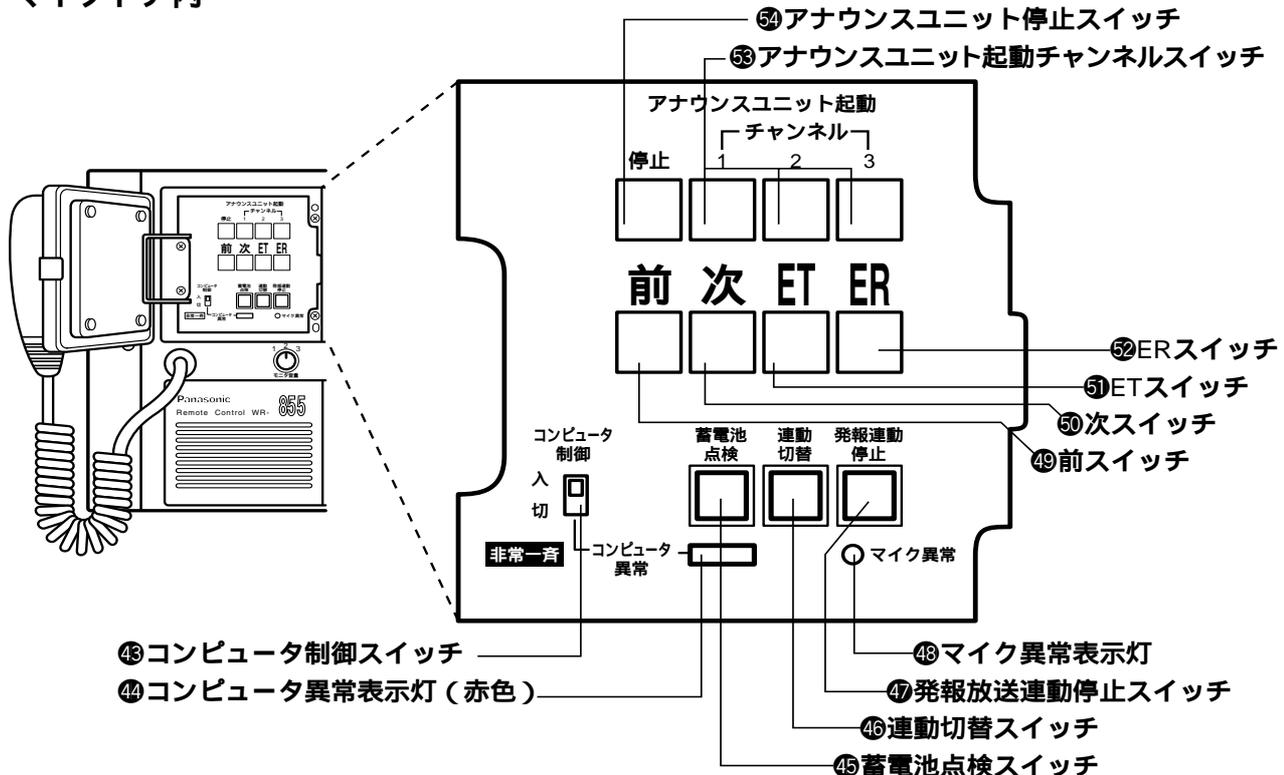
ご注意

増設用業務操作ユニットとして使用する場合は、操作できません。スイッチボタンをはずし、キャップを取り付けてください。

④② ブロック放送復旧スイッチ [ブロック放送復旧]

- 増設ユニット毎 (10局または20局単位) への放送が終了したら押します。(ユニットの作動表示灯はすべて消灯します。)

マイクドア内



各部の名前と働き

④③ コンピュータ制御スイッチ

〔コンピュータ制御 入/切〕

- 通常は必ず「入」位置にしてください。
- 異常が発見され、修理した後、このスイッチを「切」にしてから「入」にすると、正常の動作に戻ります。

- コンピュータ異常時に放送するときは、「切」にすると一斉マイク放送ができます。

メモ

本機のコンピュータ制御を「切」にすると、システム全体のコンピュータ制御が「切」になります。非常操作ユニット、非常リモコン側を「切」にしても、集中非常リモコンは、コンピュータ制御が「切」の状態にはなりません。

④④ コンピュータ異常表示灯（赤色）

- コンピュータ異常時、点灯します。

④⑤ 蓄電池点検スイッチ〔蓄電池点検〕

- 蓄電池の手動点検用のスイッチです。全棟の非常用放送設備の非常電源ユニットの蓄電池点検がされます。スイッチを押したとき、蓄電池に異常があれば、ブザーが鳴るとともに液晶パネルに蓄電池異常と表示されます。集中非常リモコン側に電源を専用に接続している場合は、蓄電池異常表示灯②が点灯します。

④⑥ 連動切替スイッチ〔連動切替〕

- モニタ選択スイッチで選択された棟の非常用放送設備の連動切替が押すたびに「連動一斉」「連動」と切り換わります。
連動一斉：自動火災感知器と連動し、全館一斉に非常放送されます。
（「連動一斉」表示灯⑬点灯）
連動：自動火災感知器と連動し、出火階、連動階に非常放送されます。
（「連動」表示灯⑭点灯）

④⑦ 発報放送連動停止スイッチ〔発報連動停止〕

- モニタ選択スイッチで選択された棟の非常用放送設備の発報連動停止が押すたびに「発報連動」「発報連動停止」と切り換わります。
発報連動：自動火災感知器の動作によって、発報放送を行います。（「発報連動停止」表示灯⑯消灯）
発報連動停止：自動火災感知器の動作時に発報放送が放送されません。手動または自動により火災放送に移行します。（「発報連動停止」表示灯⑯点灯）

④⑧ マイク異常表示灯（赤色）

- マイクロホンがはずれている場合などに点灯します。

④⑨ 前スイッチ〔前〕

- 液晶パネルの異常詳細表示画面において、内容が一画面内に入らない場合に、前ページに画面を切り換えます。

④⑩ 次スイッチ〔次〕

- 液晶パネルの異常詳細表示画面において、内容が一画面内に入らない場合に、次ページに画面を切り換えます。

④⑪ ETスイッチ〔ET〕

- 液晶パネルの異常詳細画面から通常画面に戻るときに押します。

④⑫ ERスイッチ〔ER〕

- 異常発生時に液晶パネルに異常の内容を表示させるために押します。

④⑬ アナウンスユニット起動スイッチ〔チャンネル1, 2, 3〕

- アナウンスユニット(別売)の、チャンネル(1, 2, 3)を起動するスイッチです。

④⑭ アナウンスユニット停止スイッチ〔アナウンスユニット停止〕

- チャンネルの起動を停止させます。

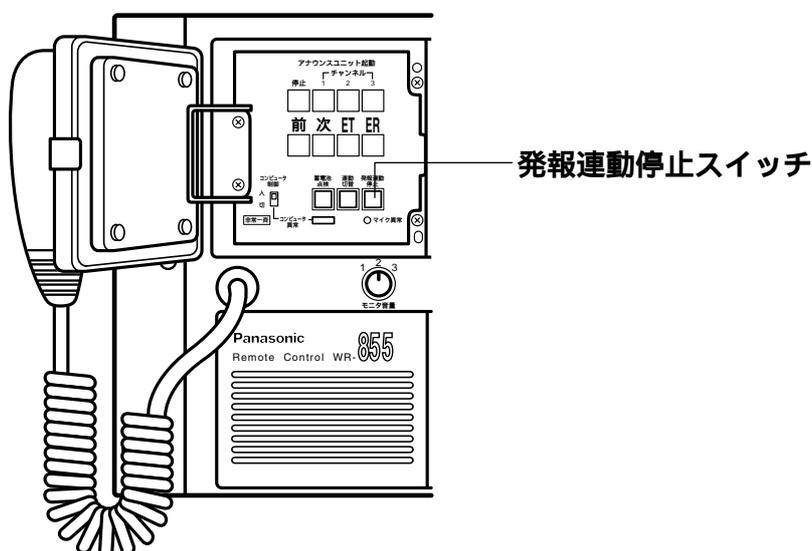
非常放送のしかた

- 本システムは自動火災感知器と連動して自動的に非常放送されます。
- 内部の設定により火災発生時の非常放送の手順が異なります。
事前に販売店（工事店）から起動方法を確認しておいてください。

自動/手動	起 動 入 力	発報連動停止スイッチ (マイクドア内)		発報/火災切換スイッチ (マイクドア内)	
		連 動	発報連動停止	発報放送	火災放送
自 動	自動火災感知器（第一報）	(1)	(2)	/	
	発信機、非常電話				
手 動	非常起動スイッチを押す			(5)	(6)

集中非常リモコンには発報/火災切換スイッチがありません。（非常用放送設備の非常操作ユニット側で設定）

マイクドア内



● マイク放送について

- ・ マイク放送は音声警報より優先して放送されます。状況を把握し、適宜マイクにて放送してください。
- ・ マイクで業務放送中に非常放送が入った場合、マイクでの放送は遮断され、非常放送が優先されます。
- ・ マイク放送後は下記の状態になります。

「発報放送」中のマイク放送後 : 無音、第1タイマー継続（WL-7050/7550接続時は第1タイマ - 停止）

「非火災放送」中のマイク放送後 : 無音

「火災放送」中のマイク放送後 : シグナル音が鳴ります。

● 放送復旧スイッチを押した後の動作は下記の状態になります。

「発報放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音、第1タイマー継続（WL-7050/7550接続時は第1タイマ - 停止）

「非火災放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音

「火災放送」中の放送復旧後 : 無選択、無音（WL-7050, 7550接続時はシグナル音鳴動）

注) 第2タイマータイムアップによる「一斉火災放送」中は、放送復旧スイッチは無効になります。

● 連動表示が点灯している場合

自動火災感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送は、出火階と連動階に放送されます。

● 連動一斉表示が点灯している場合

自動火災感知器、発信機または非常電話からの起動による非常放送は、全館一斉に放送されます。

● アナウンスユニットを優先して放送する場合

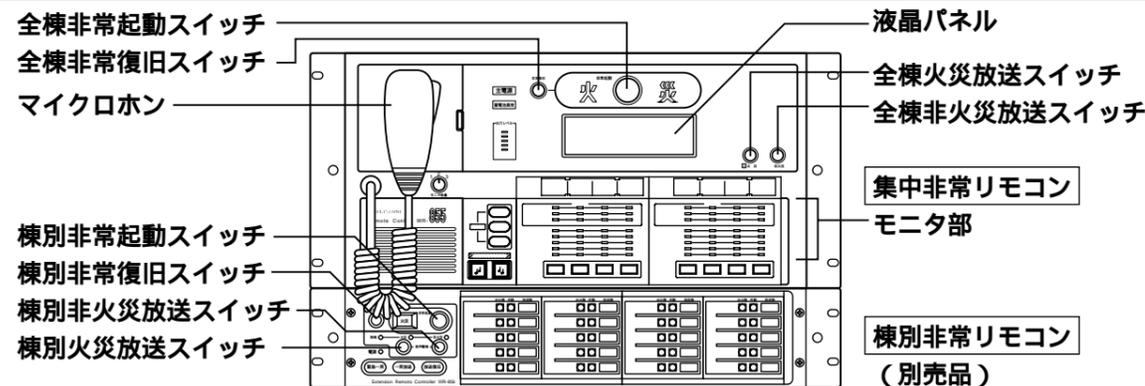
アナウンスユニットを手動で起動させ、内臓された音声警報メッセージよりアナウンスユニットを優先して放送することができます。このようなシステムを組まれている場合は、非常放送のしかたについて販売店（工事店）より説明を受けてください。

非常放送のしかた(1)・(2) 火災感知器より

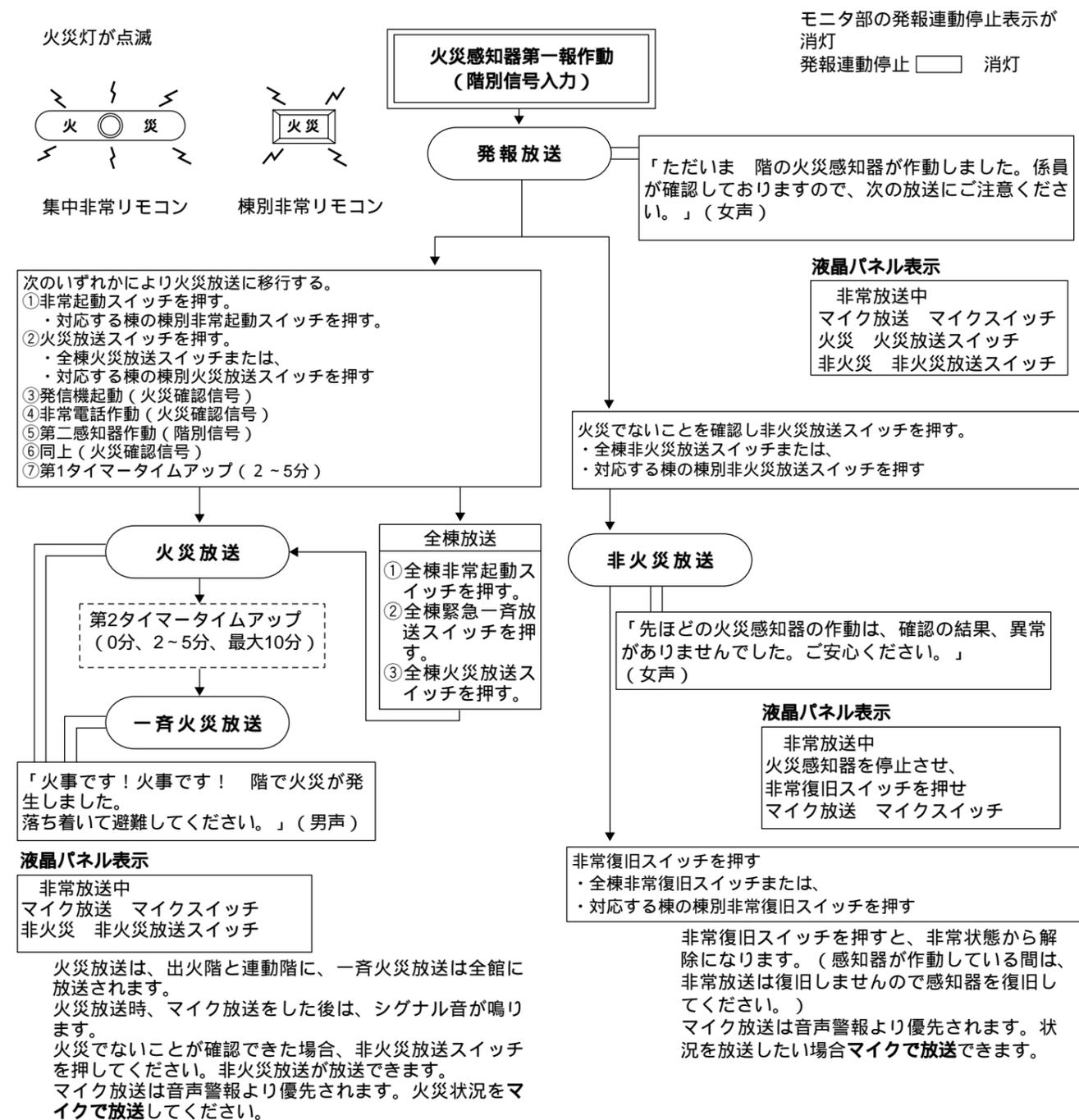
非常用放送設備は、火災発生時に音声警報を自動的に放送します。
起動方式により操作方法（動作）が異なります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。

マイク放送は音声警報より優先して放送されます。

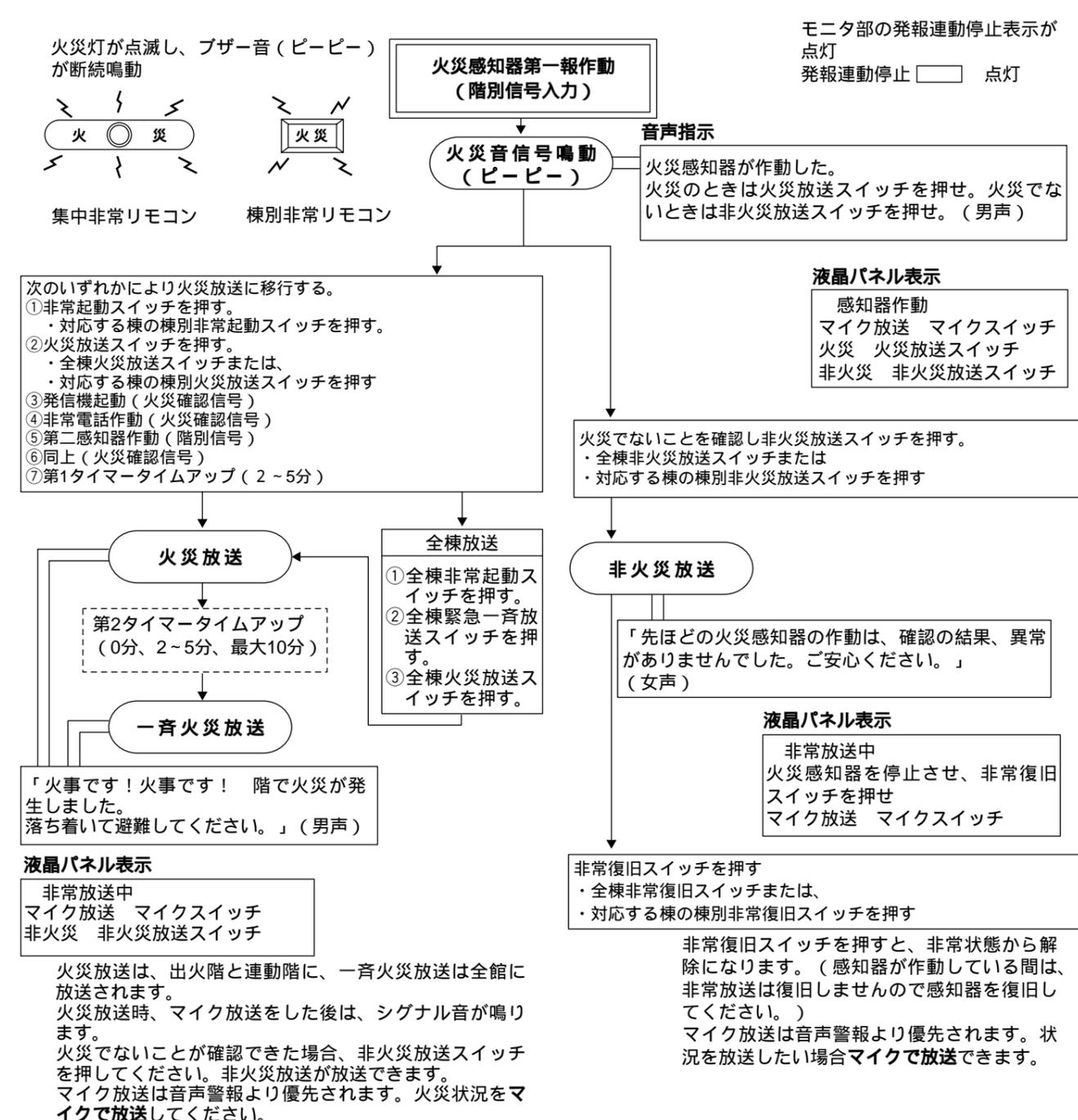
- ・はじめに火災報知設備より出力された信号を第一報、その次の信号を第二報といいます。
- ・階別信号とは、自動火災感知器が火災を感知したことを知らせるため火災報知設備から出力される信号です。
- ・火災確認信号とは、火災が確定した際に、火災報知設備から出力される信号です。
- ・タイムアップとは、階別信号受信後、設定した時間（2～5分）が経過すると自動的に火災放送に移行することです。



(1) 発報放送連動停止スイッチの設定が「発報連動」の場合

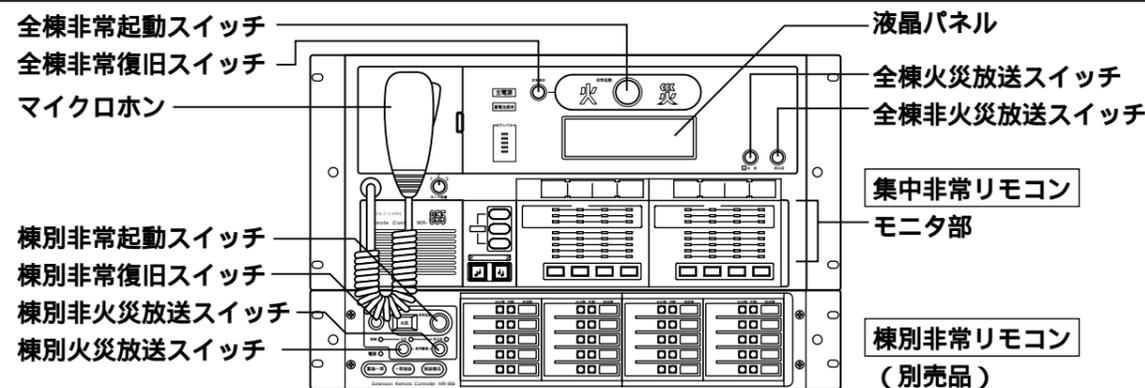


(2) 発報放送連動停止スイッチの設定が「発報連動停止」の場合



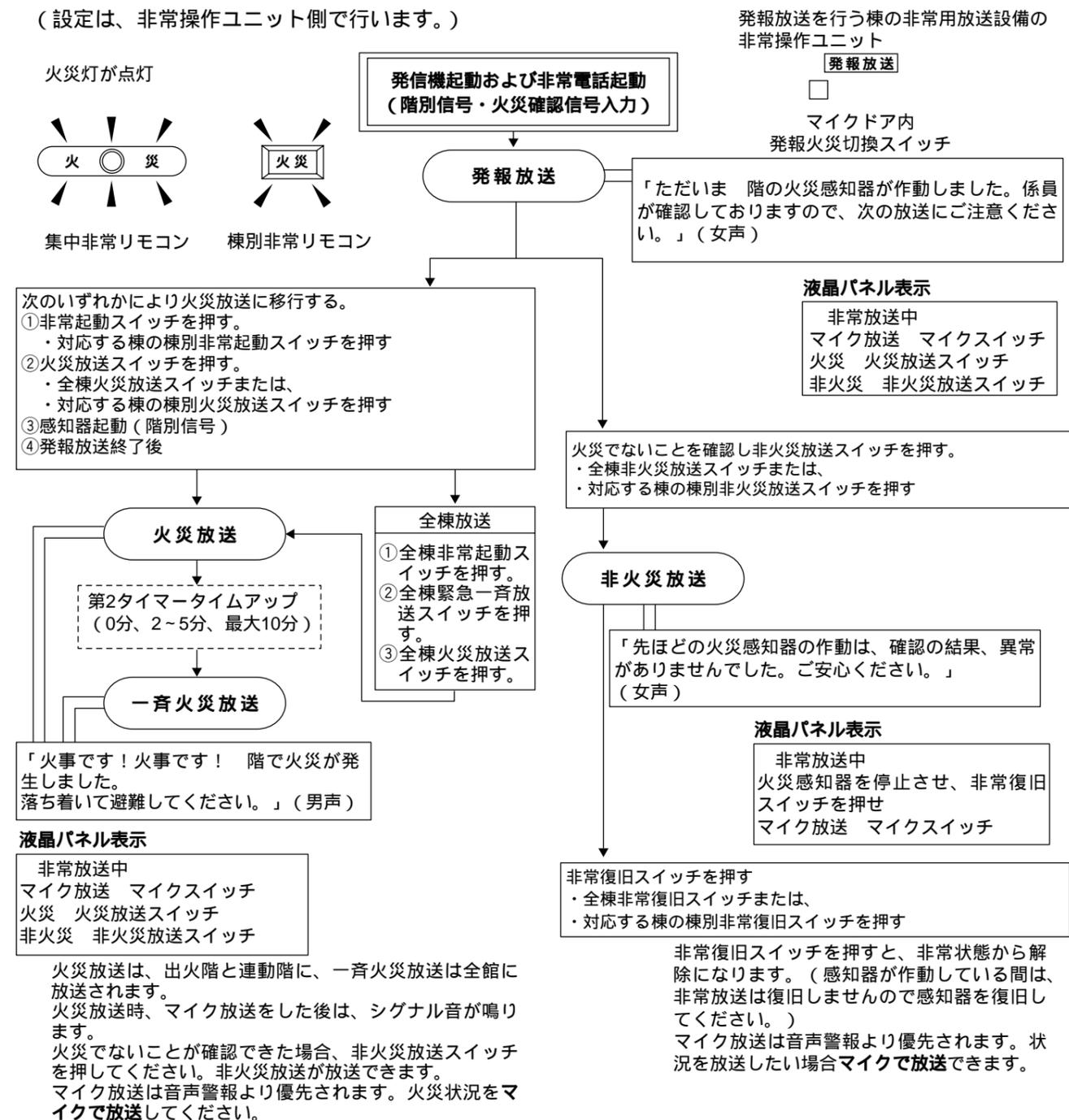
非常放送のしかた(3)・(4) 発信機・非常電話より

非常用放送設備は、火災発生時に音声警報を自動的に放送します。
 起動方式により操作方法（動作）が異なります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。
 マイク放送は音声警報より優先して放送されます。
 ・階別信号とは、自動火災感知器が火災を検知したことを知らせるため火災報知設備から出力される信号です。
 ・火災確認信号とは、火災が確定した際に、火災報知設備から出力される信号です。



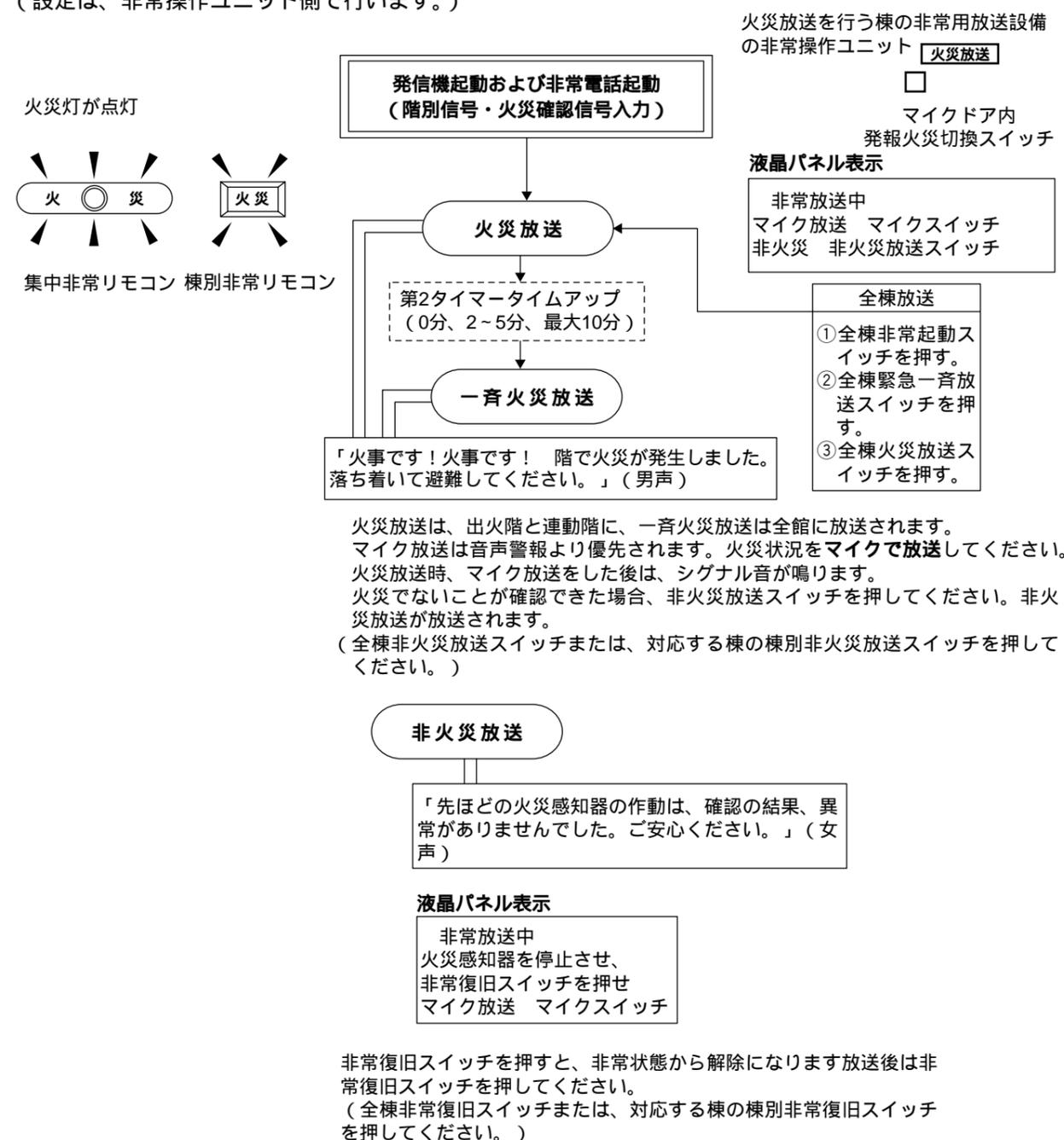
(3) 発報火災切換スイッチの設定が「発報放送」の場合

(設定は、非常操作ユニット側で行います。)



(4) 発報火災切換スイッチの設定が「火災放送」の場合

(設定は、非常操作ユニット側で行います。)

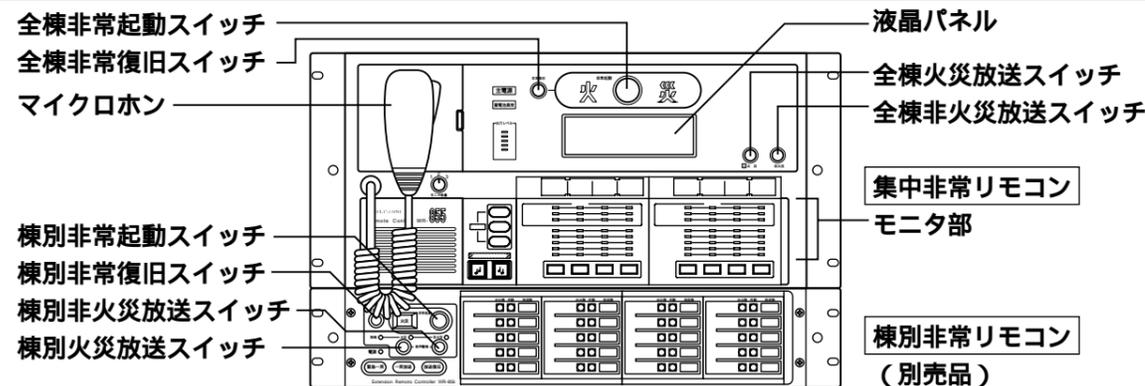


非常放送のしかた(5)・(6) 手動起動

非常用放送設備は、火災発生時に音声警報を自動的に放送します。起動方式により操作方法（動作）が異なります。あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認してください。

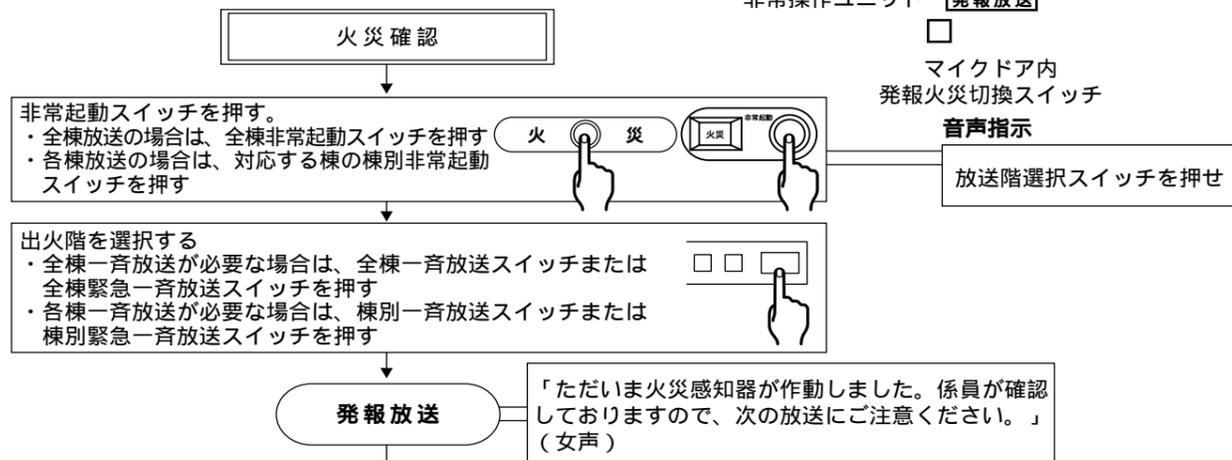
マイク放送は音声警報より優先して放送されます。

- ・階別信号とは、自動火災感知器が火災を検知したことを知らせるため火災報知設備から出力される信号です。
- ・火災確認信号とは、火災が確定した際に、火災報知設備から出力される信号です。

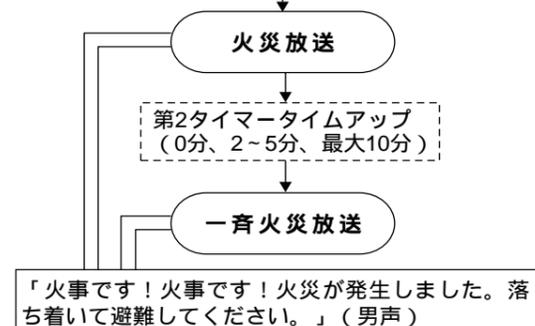


(5) 発報火災切換スイッチの設定が「発報放送」の場合

発報放送を行う棟の非常用放送設備の非常操作ユニット **発報放送**



- 次のいずれかにより火災放送に移行する。
- ①非常起動スイッチを押す。
・全棟放送の場合は、全棟非常起動スイッチを押す
・各棟放送の場合は、対応する棟の棟別非常起動スイッチを押す
 - ②火災放送スイッチを押す。
・全棟放送の場合は、全棟火災放送スイッチを押す
・各棟放送の場合は、対応する棟の棟別火災放送スイッチを押す
 - ③発信機起動（火災確認信号）
 - ④非常電話作動（火災確認信号）
 - ⑤感知器作動（階別信号）
 - ⑥第1タイマータイムアップ（2～5分）



火災放送は、出火階と連動階に、一斉火災放送は全館に放送されます。マイク放送は音声警報より優先されます。火災状況をマイクで放送してください。火災放送時、マイク放送をした後は、シグナル音が鳴ります。

火災でないことが確認できた場合、非火災放送スイッチを押してください。非火災放送が放送できます。
(全棟放送の場合は、全棟非火災放送スイッチを、各棟放送の場合は、対応する棟の棟別非火災放送スイッチを押してください。)

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。放送後は非常復旧スイッチを押してください。
(全棟放送の場合は、全棟非常復旧スイッチを、各棟放送の場合は、対応する棟の棟別非常復旧スイッチを押してください。)

液晶パネル表示

非常放送中
マイク放送 マイクスイッチ
火災 火災放送スイッチ
非火災 非火災放送スイッチ

液晶パネル表示

非常放送中
マイク放送 マイクスイッチ
非火災 非火災放送スイッチ

非火災放送

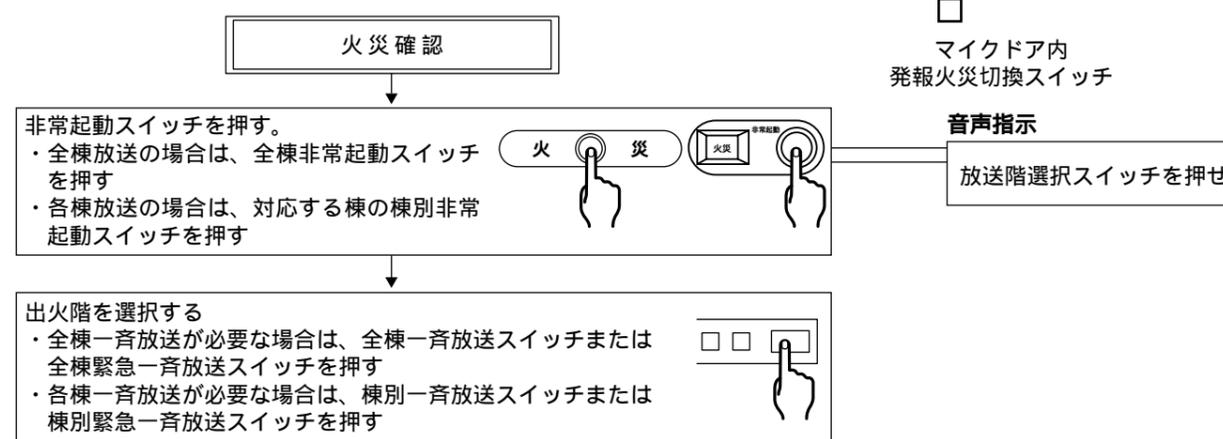
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」
(女声)

液晶パネル表示

非常放送中
火災感知器を停止させ、非常復旧スイッチを押せ
マイク放送 マイクスイッチ

(6) 発報火災切換スイッチの設定が「火災放送」の場合

火災放送を行う棟の非常用放送設備の非常操作ユニット **火災放送**



火災放送は、出火階と連動階に、一斉火災放送は全館に放送されます。マイク放送は音声警報より優先されます。火災状況をマイクで放送してください。火災放送時、マイク放送をした後は、シグナル音が鳴ります。

火災でないことが確認できた場合、非火災放送スイッチを押してください。非火災放送が放送できます。
(全棟放送の場合は、全棟非火災放送スイッチを、各棟放送の場合は、対応する棟の棟別非火災放送スイッチを押してください。)

非常復旧スイッチを押すと、非常状態から解除になります。放送後は非常復旧スイッチを押してください。
(全棟放送の場合は、全棟非常復旧スイッチを、各棟放送の場合は、対応する棟の棟別非常復旧スイッチを押してください。)

液晶パネル表示

非常放送中
マイク放送 マイクスイッチ
非火災 非火災放送スイッチ

非火災放送

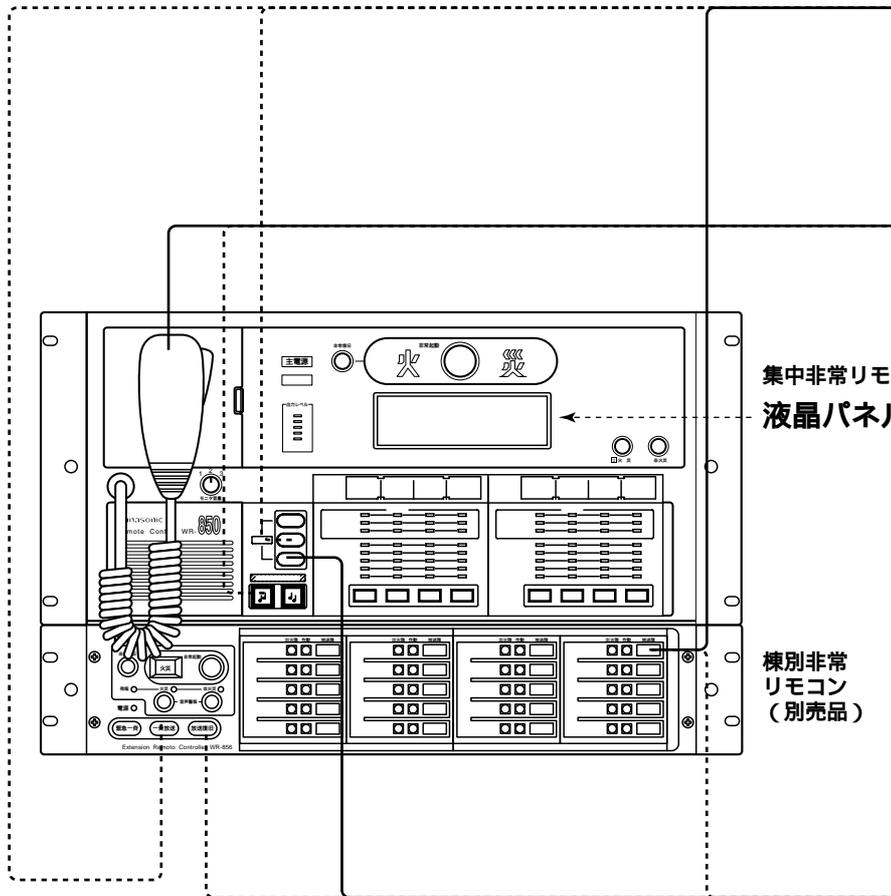
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」
(女声)

液晶パネル表示

非常放送中
火災感知器を停止させ、非常復旧スイッチを押せ
マイク放送 マイクスイッチ

業務放送のしかた

- 業務放送とは、案内やBGMなど非常放送や緊急放送以外の一般放送のことです。
- マイクで業務放送中に非常放送になった場合、マイクでの放送は遮断され、非常放送が優先されます。



1 放送階選択スイッチを押します。
各棟に個別放送するときは、放送階選択スイッチを、一斉放送するときは、対応する棟の棟別非常リモコンの棟別一斉放送スイッチを押します。
全棟に一斉放送するときは、全棟一斉放送スイッチを押します。

2 マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。
放送の前後にコールサインスイッチを押してください。(コールサインが鳴ります。)

(マイクからの放送を業務入力 of 放送より優先させることができます。(出荷時：ミキシング))

スイッチを押す



集中非常リモコン
液晶パネル

棟別非常
リモコン
(別売品)

3 放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。
個別に復旧するときは、それぞれの放送階選択スイッチを押します。
棟別に復旧するときは、棟別放送復旧スイッチを押します。
全棟を復旧するときは、全棟放送復旧スイッチを押します。



液晶パネルの表示



ご注意

液晶パネルの表示は

- 棟別非常リモコンの放送階選択スイッチを押したときは、対応する本体の表示をします。
- 集中非常リモコンのモニタ選択スイッチを押したときは、選択した本体の表示をします。

アナウンスユニットからの放送のしかた

非常放送

- 集中非常リモコンWR-855からの非常放送のときに、マイク放送の代わりにアナウンスユニット(WZ-DP100など)からの放送ができます。
1. 集中非常リモコンの放送階選択、緊急一斉、一斉放送スイッチを押し、集中非常リモコンからの放送状態にします。
 2. 発報放送、火災信号鳴動時、液晶パネル表示が「マイク放送 マイクスイッチ」のときにマイクドア内のチャンネル起動スイッチを押してください。液晶パネル表示が「アナウンスユニット放送中」となり、アナウンスユニットから放送となります。
 - アナウンスユニット放送中にマイク放送を行う場合は、マイクスイッチを押してください。マイク放送が優先します。
 - アナウンスユニット放送の優先順位は、マイク放送 > アナウンスユニット放送 > 音声警報となります。
 3. アナウンスユニット放送を停止するときは、停止スイッチを押してください。

ご注意

アナウンスユニットで非常放送するときは、管轄消防署の許可が必要です。

業務放送

- 集中非常リモコンからの業務放送のときに、アナウンスユニットからの放送ができます。
1. 放送階選択、緊急一斉、一斉放送スイッチを押し、放送状態にします。
 2. 液晶パネル表示が右記のときにチャンネル起動スイッチを押してください。アナウンスユニットから放送となります。
 - アナウンスユニット放送中にマイク放送を行う場合は、マイクスイッチを押してください。マイク放送が優先します。
 3. アナウンスユニット放送を停止するときは、停止スイッチを押してください。

起動スイッチの操作

1. マイクドア内のチャンネル起動スイッチを押し、アナウンスユニットを起動します。
2. 終了時は、停止スイッチを押します。

ご注意

- アナウンスユニットからの起動による放送はできません。
- アナウンスユニットのロックスイッチを「入」にしてご使用ください。

液晶パネル

《非常放送中》
 マイク放送 マイクスイッチ
 火災 火災放送スイッチ
 非火災 非火災放送スイッチ

アナウンスユニット放送

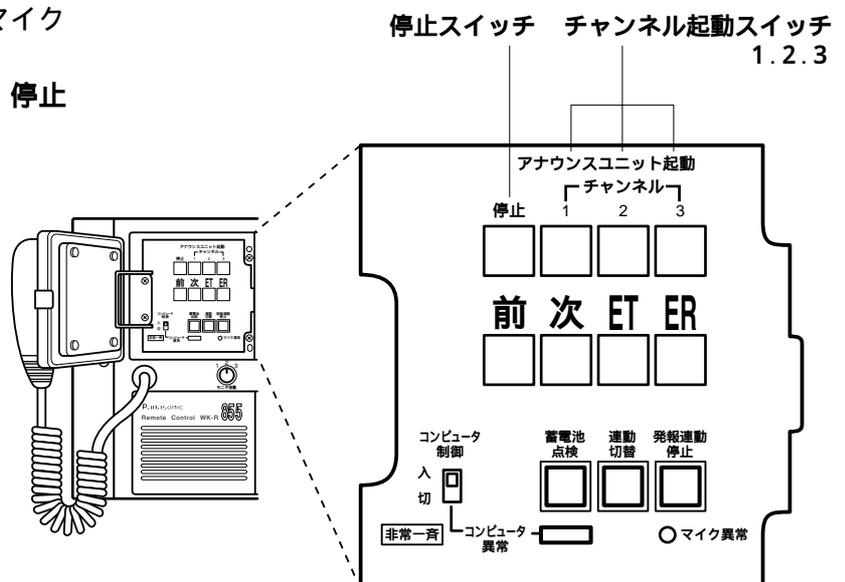
《非常放送中》
 アナウンスユニット放送中
 マイク放送 マイクスイッチ

液晶パネル

《業務放送中》
 集中 RM1

アナウンスユニット放送

《業務放送中》
 AU 集中1



相互通話のしかた

相互通話（インターホン）機能

放送が行われていないときに、集中非常リモコンと各棟の非常操作ユニットとの間で、マイクロホンとモニタスピーカを使い、相互通話（インターホン）ができます。

相互通話のしかた

1 放送が行われていないことを液晶パネルで確認します（下の画面）。

通常時：

（表示なし）

または

非常時：

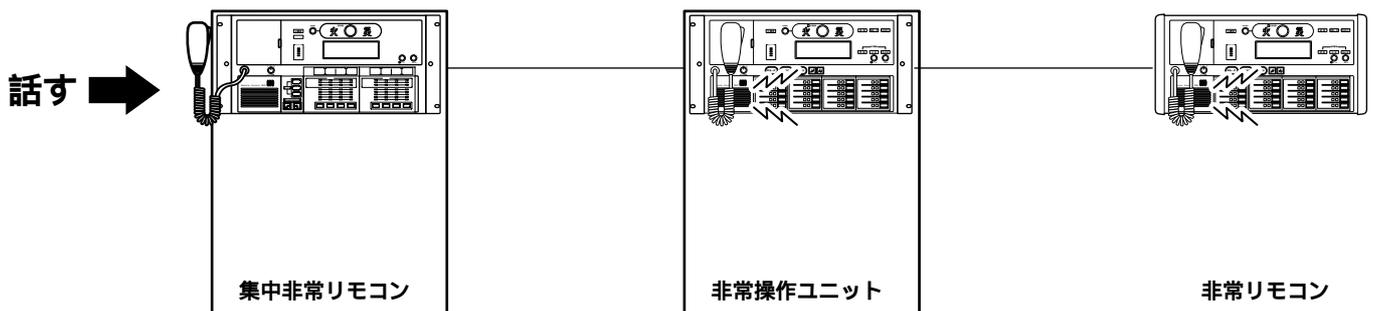
非常放送中
放送階選択スイッチを押せ

（注意）

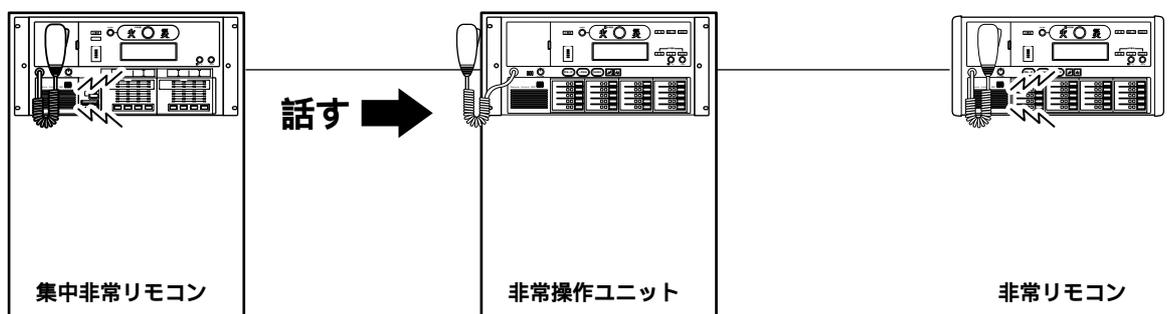
放送階選択スイッチが押され、表示が左表示以外になると、マイク音声は放送階へ放送されます。

2 通話を行う棟のモニタ選択スイッチを押します。マイクロホンを取り、マイクスイッチを押しながら話します。

モニタ音量つまみを“2”または“3”の位置にして使用してください。



- 通常時：モニタ選択している棟の非常操作ユニットと非常リモコンのモニタスピーカから出力されます。
- 非常時：非常放送状態の棟の非常操作ユニットと非常リモコンのモニタスピーカから出力されます。



- 非常操作ユニットからの音声は非常リモコンとモニタ選択を行った集中非常リモコンのモニタスピーカから出力されます。
- 集中非常リモコンどうして相互通話（インターホン）する場合は、共通の棟（非常用放送設備）をモニタ選択して行ってください。この場合、非常操作ユニット側にも音声が出力されます。

メモ

放送が行われていないときにマイクロホンのスイッチを押すと、非常操作ユニット側の電源が制御され、電力増幅ユニット等のAC100V機器の電源が入ります。

日常点検

自動点検について

本機にはコンピュータによる自動点検機能が付いています。通信異常、スピーカ回線短絡、非常電源異常、蓄電池異常、本体停電の点検を行います。

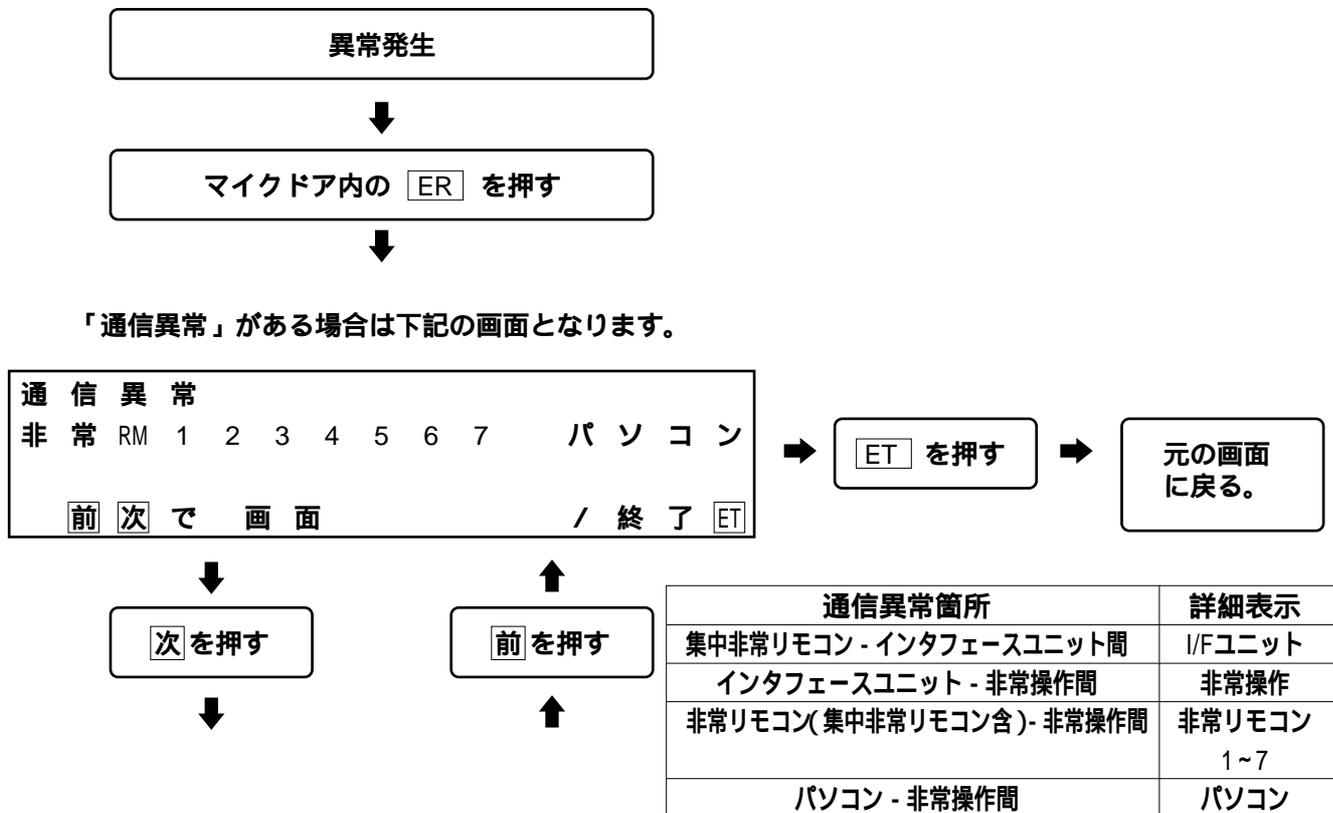
点検項目	点検内容	点検方法	異常検出時の表示 / ブザー音	復旧方法
通信異常	以下の通信を点検します。 ●集中非常リモコンとインタフェースユニット間 ●インタフェースユニットと非常操作間 ●非常操作と非常リモコン（集中非常リモコン含）間（非常リモコン1～7） ●パソコンと非常操作間	常時、自動点検します。	●集中非常リモコンの「作動表示灯」が点滅します。 ●ブザー音（ピー）が鳴ります。 ●液晶パネルに「通信異常」を表示します。  ●マイクドア内の[ER]スイッチを押すと詳細画面となります。（次ページ参照）	販売店または保守契約店にご連絡ください。
スピーカ回線短絡	スピーカ回線の短絡を点検します。	短絡状態のスピーカ回線で放送を行おうとしたときに検出します。	●該当する棟別非常リモコンまたは、増設用非操作ユニットの「作動表示灯」が点滅します。 ●液晶パネルに「回路短絡」を表示します。  ●マイクドア内の[ER]スイッチを押すと詳細画面となります。（次ページ参照） ●ブザー音（ピー）は鳴りません。	
非常電源異常	本体非常電源ユニットの非常電源電圧が正常かどうか点検します。	常時、自動点検します。	●集中非常リモコンの「非常電源表示灯」が「緑灯」から「赤灯」に変わります。	
非常操作ユニット蓄電池異常	本体非常電源ユニット内の蓄電池が正常かどうか点検します。	24時間おきに自動点検します。	●集中非常リモコンの「非常電源表示灯」が「緑灯」から「赤灯」に変わります。 ●集中非常リモコンの「作動表示灯」が点滅します。 ●ブザー音（ピー）が鳴ります。 ●点滅作動表示灯に対するモニタ選択スイッチを押すと液晶パネルに「蓄電池異常」を表示します。 	
集中非常リモコン蓄電池異常	集中非常リモコン用の非常電源ユニット内の蓄電池が正常かどうか点検します。 （集中非常リモコン側に電源を専用に接続している場合）	24時間おきに自動点検します。	●集中非常リモコンの「蓄電池異常表示灯」が点灯します。 ●ブザー音（ピー）が鳴ります。	
本体停電	本体の停電の有無を点検します。	常時、自動点検します。	●集中非常リモコンの「作動表示灯」が点滅します。 ●ブザー音（ピー）が鳴ります。 ●点滅作動表示灯に対するモニタ選択スイッチを押すと液晶パネルに「本体停電」を表示します。  ●[ER]スイッチによる詳細画面はありません。	

ブザー音（ピー）は前面のいずれかのスイッチ（放送階選択スイッチなど）を押すと止まります。

日常点検

異常詳細表示

「通信異常」、「スピーカ回線短絡」は以下の操作で詳しい内容を確認することができます。



「スピーカ回線短絡」がある場合は下記の画面となります。



ご注意

液晶パネルの非常リモコンの番号は、全て表示された場合の例です。

日常点検

ご注意

万一の際、的確に機器が動作するよう日常点検を行ってください。

日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または、保守契約店にご連絡ください。修理、復旧を
実費で行います。くわしくは、販売店にご相談ください。

- 日常点検は動作の一部だけを点検するものですから、必ず定期点検を行ってください。

蓄電池の手動点検

手動で全棟の非常用放送設備の蓄電池を点検するときは、次の手順で行ってください。

1. 集中非常リモコンのマイクドアを開け、蓄電池点検スイッチを押します。
2. 蓄電池に異常があると作動表示灯が点滅し、非常電源表示が緑から赤に変わります。モニタ選択された液晶パネルに「蓄電池異常」と表示され、ブザー音（ピー）が断続鳴動します。
3. いずれかのスイッチを押すとブザー（ピー）音が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
4. ブザー音（ピー）が止まっても、液晶パネルには「蓄電池異常」と表示されたままです。
自動点検は、コンピュータ制御「切」「入」後または、手動での蓄電池点検後から新たに24時間おきに行います。

保守契約のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。
- 建物の規模、用途によっては消防設備士または、自治大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。
- 非常用放送設備が常に正しく動作するために保守契約のご締結をおすすめします。
保守契約の締結については、販売店、工事店または販売会社にお問い合わせください。
- 保守契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引受けするわけですから保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。

蓄電池の交換について

蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。

点検の際容量不足があれば、全数新品と交換してください。

交換した蓄電池の取り扱いには注意してください。

交換した蓄電池は、ショートしたり、火中に投げたりすると危険です。また、屋外に放置したり、内容物を露出させることも危険ですから絶対にしないでください。

蓄電池の交換は危険ですから、販売店または、保守契約店にご依頼ください。

- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は、貴重な資源を守るために、
廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



Ni-Cd

非常操作ユニット・非常リモコン ソフトウェアのバージョンアップについて

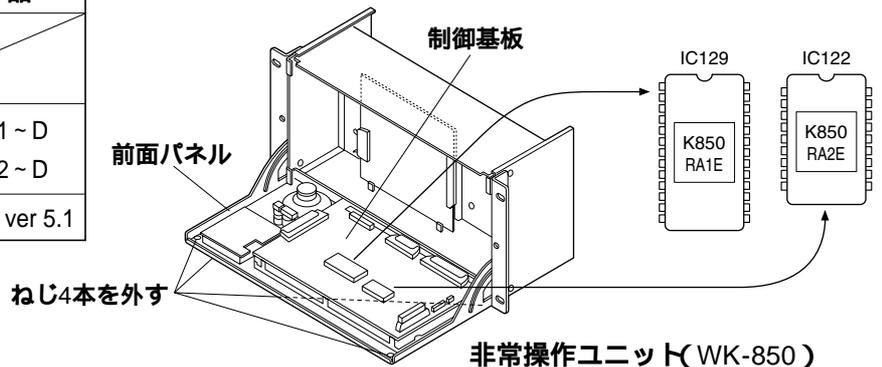
集中非常リモコンシステムに非常操作ユニット（WK-850） 非常リモコン（WR-850, 851）を接続するには、ソフトウェアの変更と、入出力制御ユニット（WU-R55）の変更が必要です。

非常操作ユニット（WK-850） 非常リモコン（WR-850, 851）のソフトウェアを製造番号690001（1996年9月生産）以降から機能向上〔集中非常リモコンシステム対応〕しています。これ以前の生産品についてはソフトウェアバージョンアップ品のROMと、入出力制御ユニット（WU-R55）製造番号690001以降のユニットの交換については、別途 事業部 営業までお問い合わせください。

非常操作ユニットのソフトウェアバージョンアップ品であることの確認方法

確認方法	バージョンアップソフト搭載品	従来品
製造番号	690001 (1996年9月生産分以降)	
非常操作ユニットのROM品番	K850RA1E K850RA2E	K850RA1～D K850RA2～D
パスワード入力画面	画面右上に ver 6.0	画面右上に ver 5.1

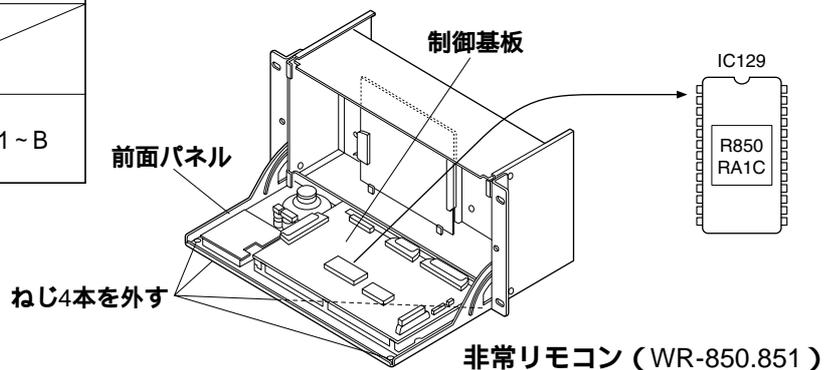
*ROM品番の調べかた



非常リモコンのソフトウェアバージョンアップ品であることの確認方法

確認方法	バージョンアップソフト搭載品	従来品
製造番号	690001 (1996年9月生産分以降)	
非常リモコンのROM品番	R850RA1C以降	R850RA1～B

*ROM品番の調べかた



ソフトウェアバージョンアップによる機能変更内容

集中非常リモコンが接続できるようになります。

本機の機能追加について

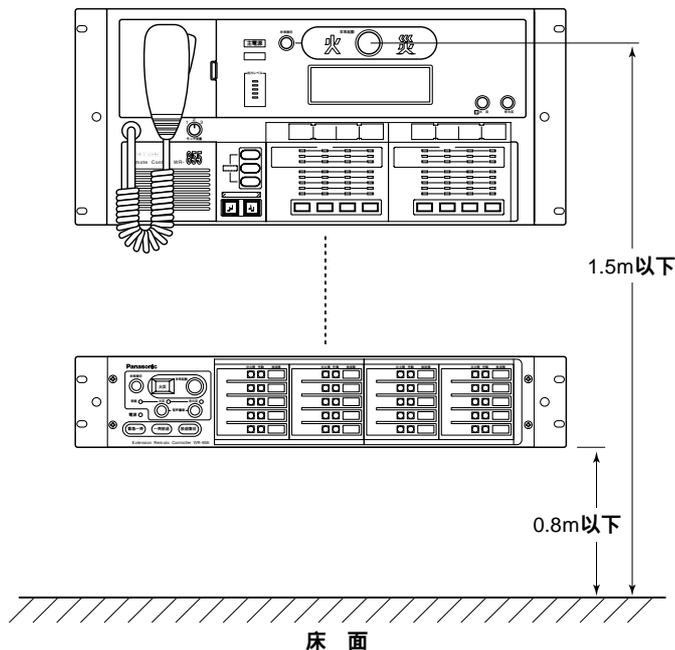
2001年11月生産以降（製造番号AK0001以降）から業務放送時に業務入力からの放送を止めて、マイクの放送を優先させることができます。ディップスイッチSW3の4番を「OFF」にします。（32ページ参照）

設置上のお願い

認定品ですから改造は絶対にしないでください。

取り付け高さにご注意

取り付け高さは法律上の規制があります。非常起動
スイッチから操作スイッチ下部までが床面から
0.8m～1.5mに収まるように設置してください。
(1つのラックに入りきらない場合は、ラック2本
にして横に並べてください。)

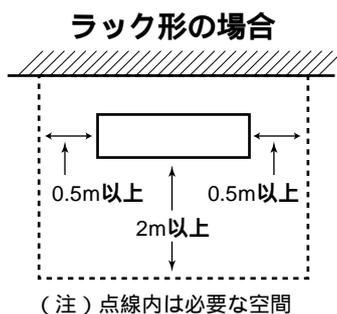


設置場所について

非常用放送設備の設置場所は、消防法上の基準を満足
するものでなければなりません。法令では具体的に
表示されておきませんので非常用放送設備委員会では
次のように指導しています。

- 避難階、その連動階及び連動階の避難上有効な出入口付近の場所で安全に避難でき、壁、床及び天井が不燃材料で造られ、開口部に甲種防火戸又は乙種防火戸を設けた場所。

- 温度又は湿度が適切で、衝撃、振動等の影響を受けるおそれのない場所。
- 守衛室等常時人の居る場所であること。
ただし、防災センター又は中央監視室が設けられている場合は、これらの場所に設置すること。
- 点検及び操作に有効な保有空間を下図のように有し
かつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。



周囲には障害物を置かないでください。

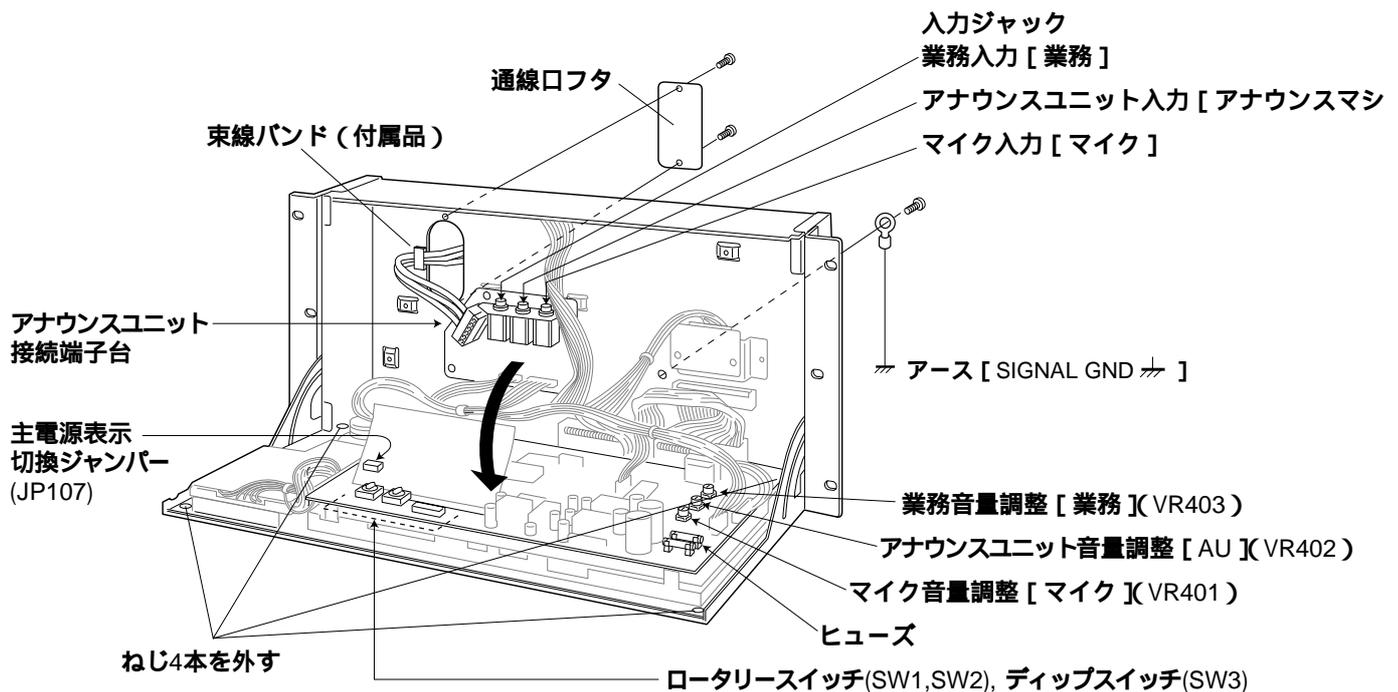
アースを必ずとってください。

操作説明書は非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。

収納ケース内の操作説明書を取り出し、設定した起動方式の操作説明書を切り離して、収納ケースに入れてください。

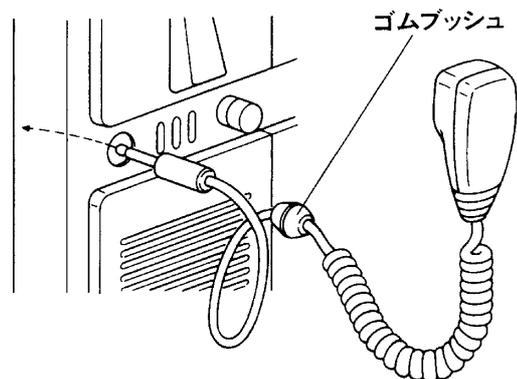
接続のしかた

パネルの開けかたとケーブルの接続

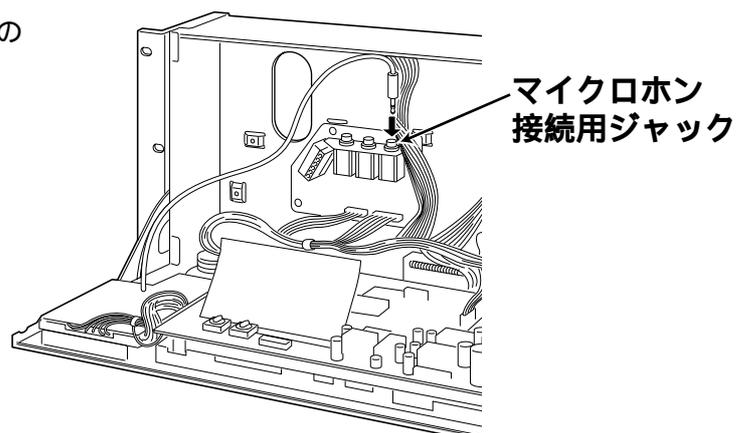


マイクロホン (付属品) の接続のしかた

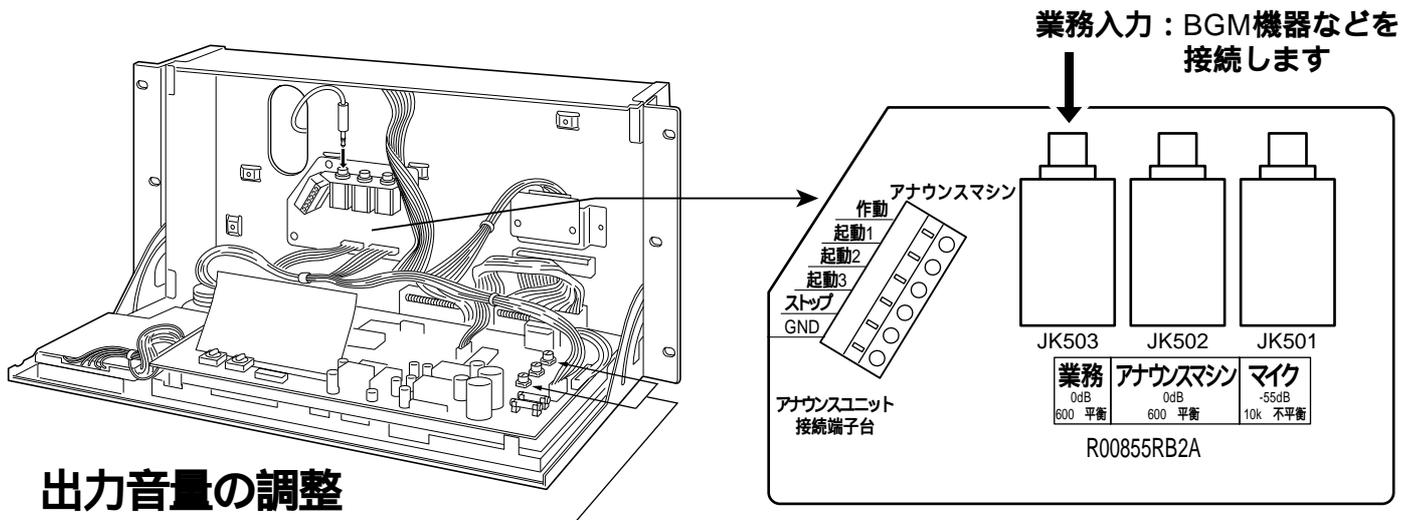
- ① マイクロホンプラグを穴に差し込んで後へ通し、ゴムブッシュをパネルにはめ込み固定します。



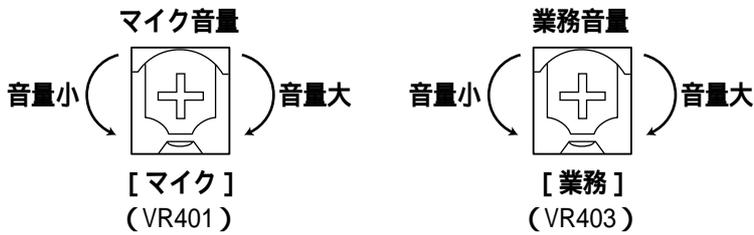
- ② 前面パネルを開け、マイクロホンのプラグを基板のマイク入力ジャックに差し込みます。



業務入力接続のしかた



出力音量の調整



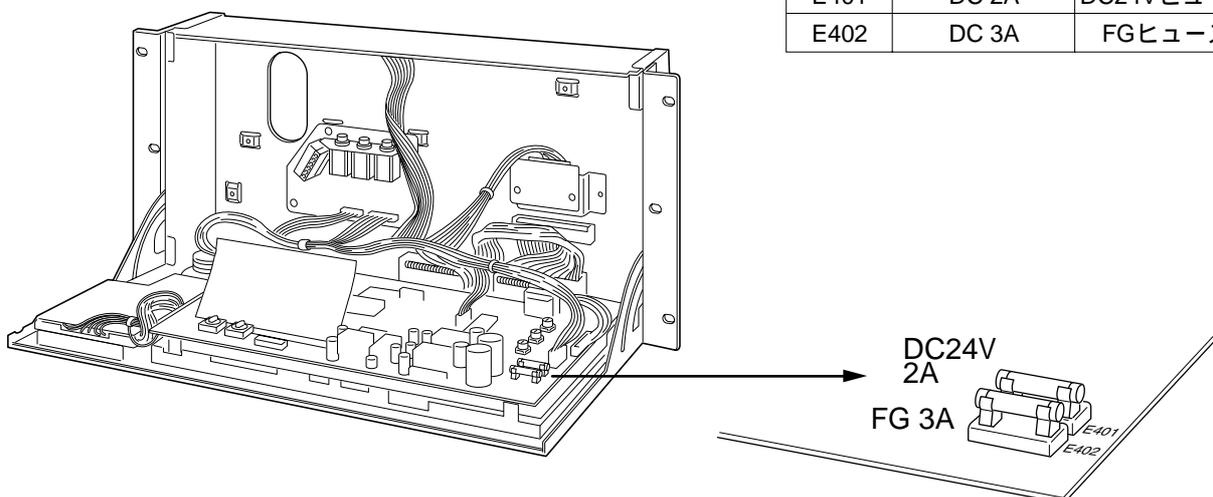
- 音量調整ボリュームで各音量を調整します。

ヒューズの交換

ヒューズが切れた場合は端子間の誤接続が考えられますので、接続を再度確認してからヒューズを交換してください。

内蔵ヒューズ

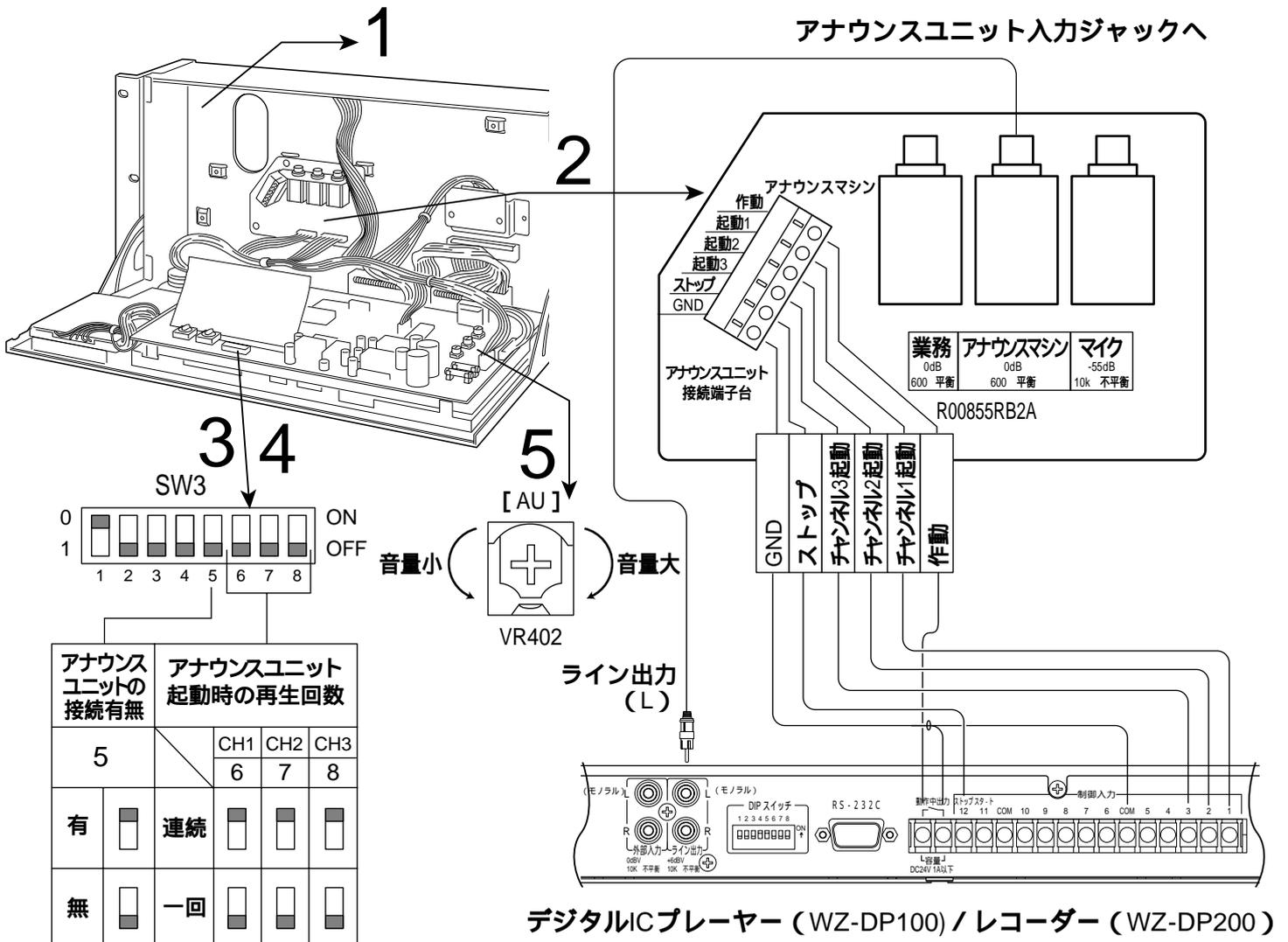
	ヒューズ容量	
E401	DC 2A	DC24Vヒューズ
E402	DC 3A	FGヒューズ



アナウンスユニットの接続のしかた

- アナウンスユニット（別売品 WZ-DP100 など）を接続し、非常放送、業務放送ができます。

デジタルICプレーヤー（WZ-DP100）／レコーダー（WZ-DP200）の接続

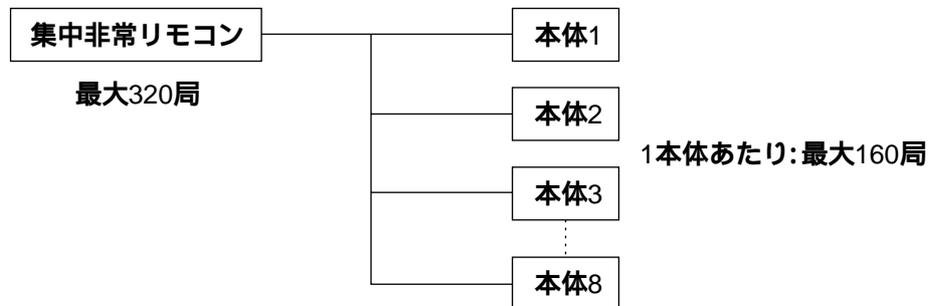


デジタルICプレーヤー（WZ-DP100）／レコーダー（WZ-DP200）

- 前面のパネルを開けます。（26ページ参照）
- 集中非常リモコンとアナウンスユニットの制御・音声ラインを結線します。
 - デジタルICプレーヤー／レコーダーの背面ディップスイッチ4番、5番を「ON」にします。
- ディップスイッチSW3の5を「ON」側にし、“接続有”に設定します。
 - アナウンスユニット（デジタルICプレーヤー／レコーダー）を接続しない場合は、必ず「OFF」側に設定してください。
- チャンネル1,2,3のアナウンス再生回数が、“連続”再生か、“一回”再生のみかをディップスイッチSW3の6,7,8で設定します。
- アナウンスユニット調整ボリューム[AU] VR402で音量を調整します。
- アナウンスユニット（デジタルICプレーヤー／レコーダー）の電源は、インタフェースユニットのDC 24V OUT に接続します。
 - 集中非常リモコン側に電源を専用に接続している場合は、電源制御ユニットのACコンセント（業務放送用の場合）または、非常電源ユニットのDC OUT（非常放送用の場合）に接続します。

集中非常リモコンシステムについて

- 学校、ビル街、工場などの多棟建築物の各棟ごとの非常放送に加え、全棟を防災センターなどで集中管理し、ここから各棟へ非常放送や業務放送ができるシステムを集中非常リモコンシステムといい、複数の非常用放送設備を集中非常リモコンで制御します。
- 集中非常リモコンで最大8台の非常用放送設備（本体）を制御することができます。



- 1本体あたりの最大局数/回線数は、160局/160回線です。
- 集中非常リモコンで制御できる局数は最大320局です。
- 本体からみて集中非常リモコンは、非常リモコンの1台と位置づけられます。接続できる台数は、1本体あたり集中非常リモコンと非常リモコンの合計7台で、システム最大合計49台までです。

最大構成例一覧

	ユニット名	例1	例2	例3	例4
1	非常操作数（本体）	8	8	8	8
2	集中非常リモコン数	7	5	3	1
3	1非常操作ユニット 当たりの非常リモコン数	0	2	4	6
4	集中非常リモコン数 非常リモコン数合計	7	21	35	49

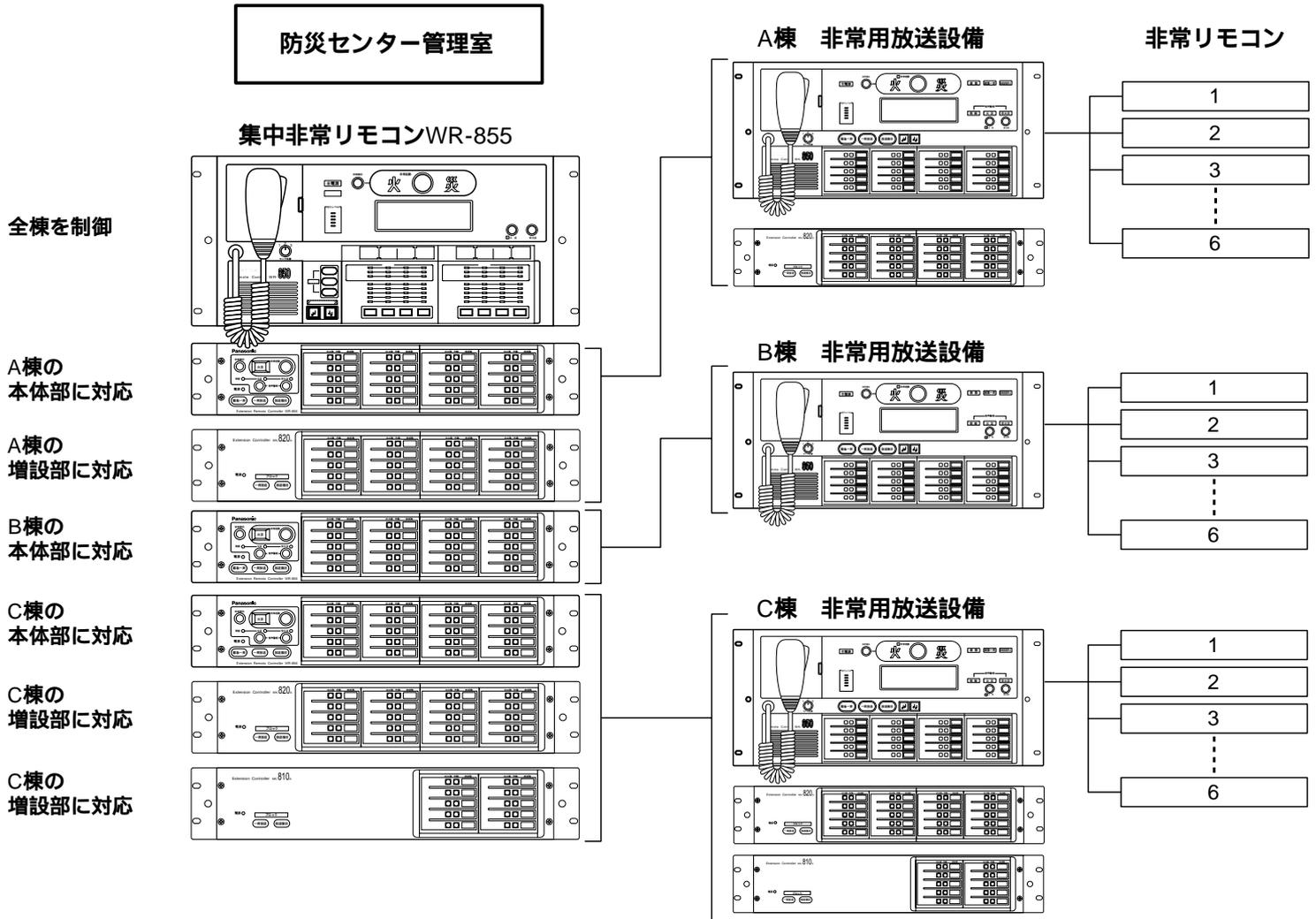
注1

注1：集中非常リモコン+非常操作ユニット1台当たりの非常リモコンの最大数は7台です。

集中非常リモコンシステムについて

システム例

3棟制御 110局



各棟の非常操作ユニットと増設用非常操作ユニットを集中非常リモコンの棟別非常リモコンと増設用非常操作ユニットに割り当てます。

この場合の1棟当たりの非常リモコンは最大6台まで接続できます。

集中非常リモコン、棟別非常リモコンと非常用放送設備（本体）との関係

- インタフェースユニットの端子盤（非常操作本体番号）に接続する非常用放送設備（本体）が集中非常リモコンのモニタ選択番号、棟別非常リモコンに対応します。

棟別非常リモコンの1台目以降のユニット番号は、若い数字から順番に集中非常リモコン、インタフェースユニットの番号に対応します。

- インタフェースユニットの端子盤、非常操作ユニット本体1に接続された非常用放送設備（本体）の棟別非常リモコンがユニット番号1台目となり、集中非常リモコンのモニタ選択番号1となります。

	インタフェースユニット 端子台非常操作本体	集中非常リモコン モニタ選択番号	棟別非常リモコン ユニット番号
メイン	1	1	1台目
	2	2	
	3	3	
	4	4	
サブ (増設)	5 (1)	5	
	6 (2)	6	
	7 (3)	7	
	8 (4)	8	

ご注意

インタフェースユニットの端子台に接続する非常用放送設備（本体）は、間をあげないでつめて接続してください。

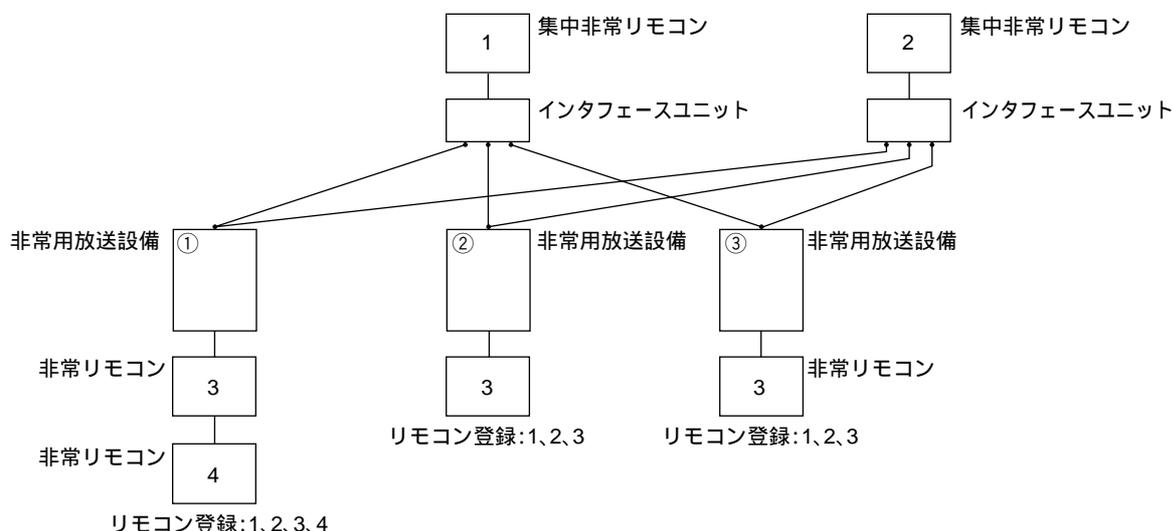
● 業務放送時の優先順位について

- 集中非常リモコンの優先順位は、接続している各棟の非常操作ユニットで書き込みを行います。
- 集中非常リモコンは、非常リモコンと同じ優先順位になり、非常リモコンとして書き込みます。各棟の非常用放送設備の優先順位設定によって集中非常リモコンの優先順位が異なる場合があります。

● 集中非常リモコンの番号の書き込みについて

- 集中非常リモコン自身の番号（アドレス）は、接続している各棟の非常操作ユニットで書き込みを行います。
- 集中非常リモコン（インタフェースユニット）に接続している各棟の非常用放送設備は、集中非常リモコン自身の番号を同じ番号にして、非常リモコンと連番でリモコン登録してください。

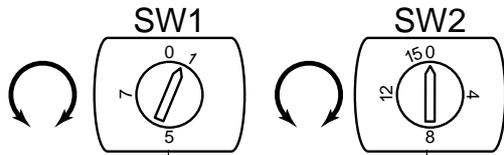
〔集中非常リモコン×2台、非常用放送設備×3台、非常リモコン×4台の例〕



ロータリースイッチ、ディップスイッチの設定

設置・接続の前に必ずスイッチの設定をしてください。

集中非常リモコン WR-855 ロータリースイッチ



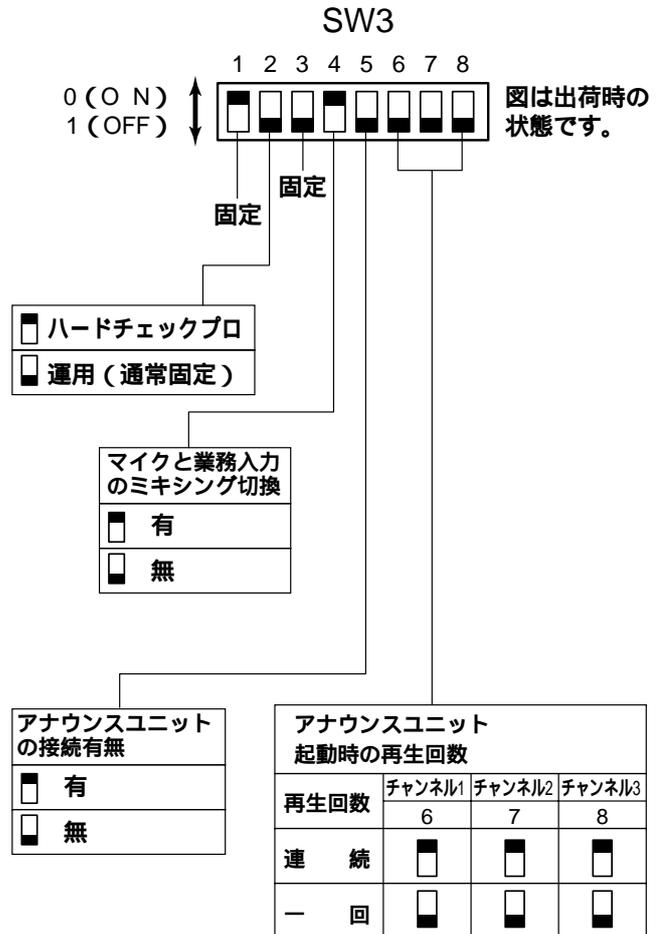
番号	台数
1	1台目
2	2台目
3	3台目
4	4台目
5	5台目
6	6台目
7	7台目

・最大7台までです。

番号	台数	備考
0	1台目	棟別非常リモコンのみ
1	2台目	
2	3台目	
3	4台目	
4	5台目	
5	6台目	
6	7台目	
7	8台目	
8	9台目	
9	10台目	
10	11台目	
11	12台目	
12	13台目	
13	14台目	
14	15台目	
15	16台目	

- ・棟別非常リモコンの増設は最大8台までです。
- ・増設用非常操作ユニットの増設は最大15台までです。

ディップスイッチ



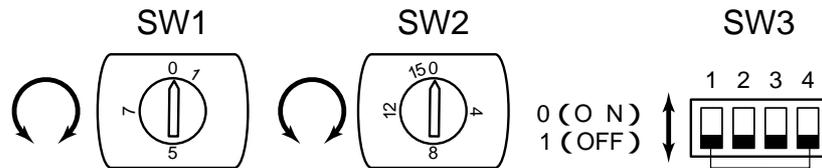
ハードチェックプロ
 運用 (通常固定)

マイクと業務入力 of ミキシング切換
 有
 無

アナウンスユニットの接続有無
 有
 無

再生回数	チャンネル1	チャンネル2	チャンネル3
連続	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
一回	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

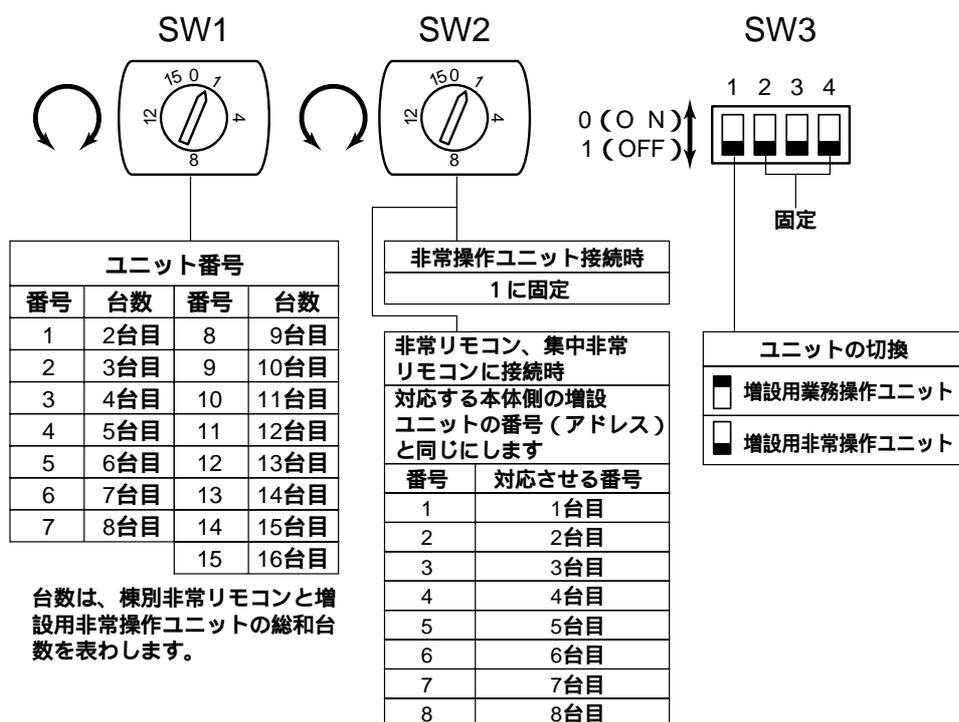
棟別非常リモコン WR-856



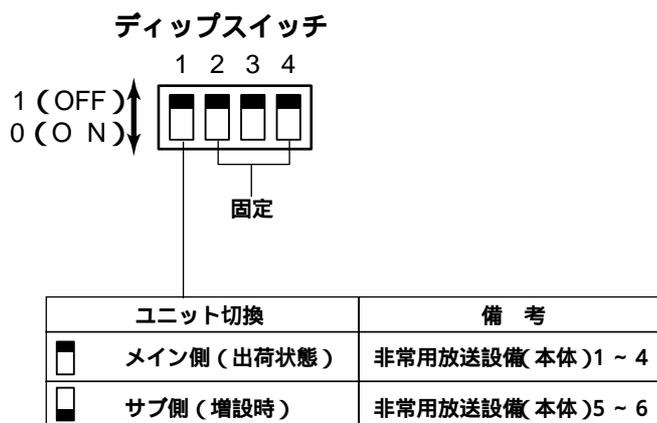
番号	台数	番号	台数
0	1台目	8	9台目
1	2台目	9	10台目
2	3台目	10	11台目
3	4台目	11	12台目
4	5台目	12	13台目
5	6台目	13	14台目
6	7台目	14	15台目
7	8台目	15	16台目

台数は、棟別非常リモコンと増設用非常操作ユニットの総和台数を表わします。

増設用非常操作ユニット WK-810A, 820A

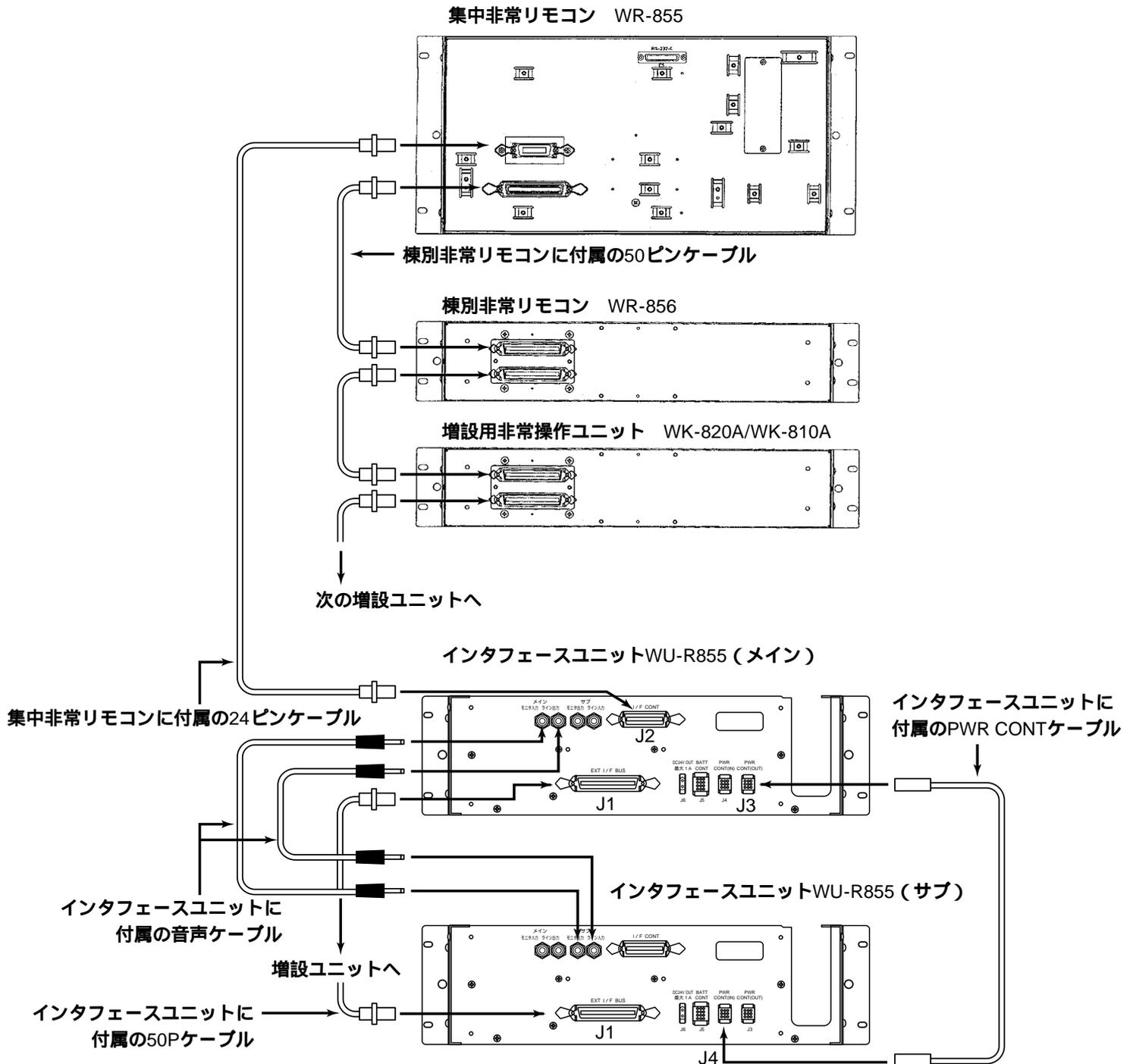


インタフェースユニット WU-R855



集中非常リモコンのユニット接続

1. 集中非常リモコンの電源を非常用放送設備（本体）から供給する場合 後面コネクタの接続



インタフェースユニット内部の電源切換ジャンパーコネクタ（CN210）を「本体」にしてください。
（出荷状態「本体」側に設定されています。）

ご注意

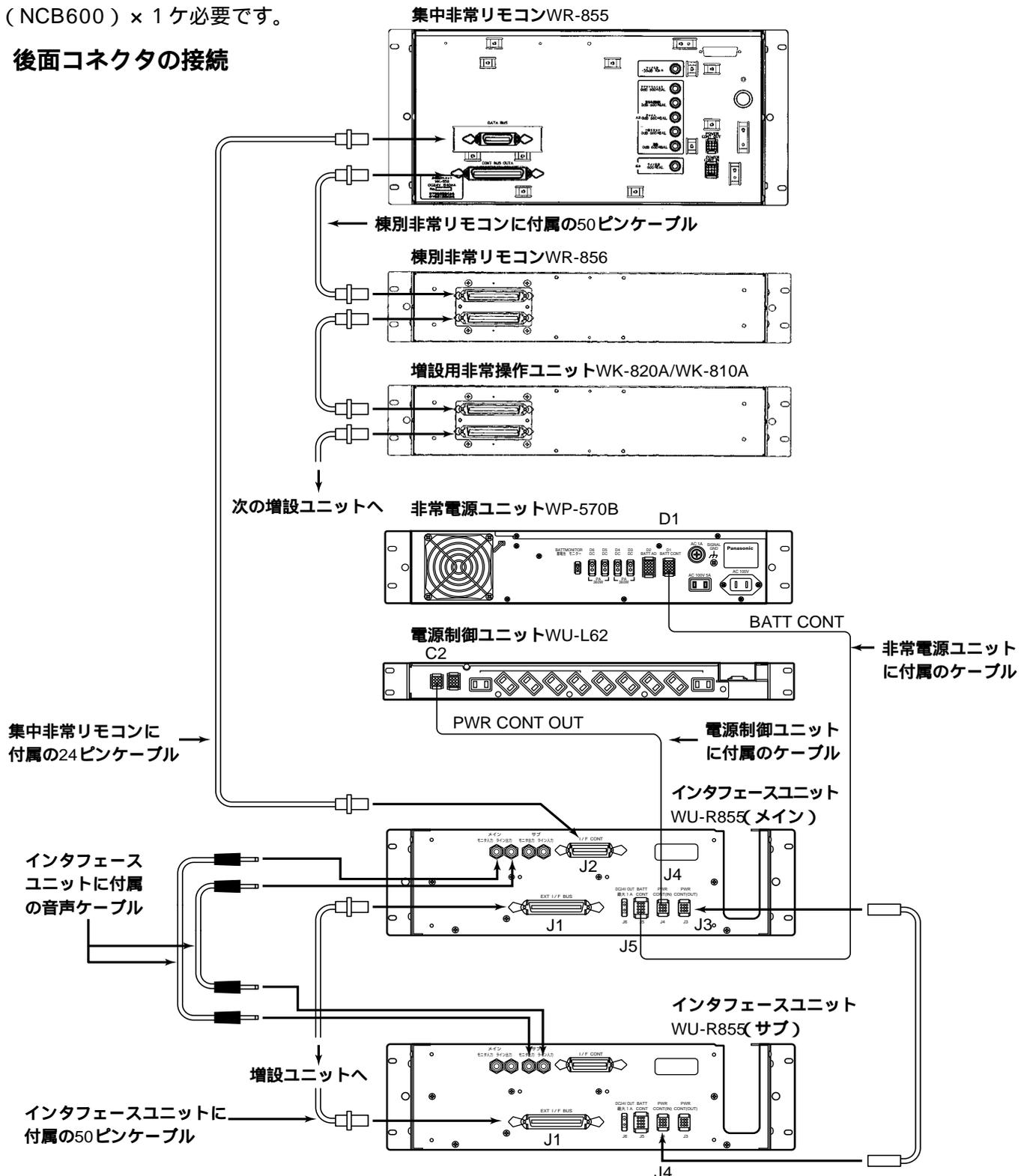
各棟の非常用放送設備の非常電源ユニット（蓄電池数）、電源制御ユニットの必要台数は、接続される集中非常リモコン／棟別非常リモコン／増設用非常操作ユニット／インタフェースユニットの合計消費電流を含めて設定してください。

2. 集中非常リモコン側に電源を専用に接続する場合

各棟の非常用放送設備と集中非常リモコンの距離が長く、非常用放送設備（本体）から供給できない時に集中非常リモコンに電源を専用に接続します。

- 電源制御ユニット（WU-L60AまたはWU-L62）1台と非常電源ユニット（WP-570B）1台と蓄電池（NCB600）×1ヶが必要です。

後面コネクタの接続



非常操作ユニットのディップスイッチSW6の3を「OFF」にします。

集中非常リモコン内部制御基板の主電源表示切換ジャンパーコネクタ（JP107）を「IC124」側に差し換えてください。（出荷時は「CN101」側に設定されています）コネクタの位置は、26ページをご参照ください。

インタフェースユニット内部の電源切換ジャンパーコネクタ（CN210）を「集中」側にしてください。

（出荷時は「本体」側に設定されています）コネクタの位置は、インタフェースユニットの取扱説明書をご参照ください。

定格・付属品

定格

電源 : DC 24V 490 mA
操作部

パネル面

非常起動スイッチ	: 1
非常復旧スイッチ	: 1
火災放送スイッチ	: 1
非火災放送スイッチ	: 1
一斉放送スイッチ	: 1
緊急一斉放送スイッチ	: 1
放送復旧スイッチ	: 1
コールサイン上りスイッチ	: 1
コールサイン下りスイッチ	: 1
モニタ選択スイッチ	: 8
モニタ音量つまみ	: 1
(1小 / 2中 / 3大 3段階切換)	

マイクドア部

「アナウンスユニット起動」	
「チャンネル1」スイッチ	: 1
「チャンネル2」スイッチ	: 1
「チャンネル3」スイッチ	: 1
「停止」スイッチ	: 1
「前」スイッチ	: 1
「次」スイッチ	: 1
「ET」スイッチ	: 1
「ER」スイッチ	: 1
コンピュータ制御スイッチ	: 1
蓄電池点検スイッチ	: 1
連動切換スイッチ	: 1
発報連動停止スイッチ	: 1

表示部

パネル面

火災表示灯	: 1 (赤)
主電源表示灯	: 1 (緑)
蓄電池異常表示灯	: 1 (赤)
出力レベル表示灯	: 1 (5ポイントバー グラフ)
液晶表示画面	: 1 (15文字×4行)
音声警報発報放送表示灯	: 8 (オレンジ)
音声警報火災放送表示灯	: 8 (赤)
音声警報非火災放送表示灯	: 8 (緑)
連動表示灯	: 8 (赤)
連動一斉表示灯	: 8 (赤)
発報連動停止表示灯	: 8 (赤)
非常電源表示灯	: 8 (赤/緑)
作動表示灯	: 8 (緑)

マイクドア部

コンピュータ異常表示灯	: 1 (赤)
マイク異常表示灯	: 1 (赤)

ハンドマイクロホン	: 1
モニタスピーカ	: 1 (300 mW)
接続部	
内部	
マイク入力	: 1、最大-55dB、10k、 不平衡、AGC、マイクスイッ チ付 (ハンドマイク用) 大型複式ジャック
アナウンスユニット入力	: 1、0 dB、600、平衡、 大型複式ジャック
業務入力	: 1、0 dB、10k、平衡、 大型複式ジャック
アナウンスユニット制御端子	: 作動 / チャンネル1起動 / チャ ンネル2起動 / チャンネル3起 動 / ストップ / GND

背面

IF CONT	: 1系統、24ピンコネクタ 音声系 モニタ入力 : 1、0 dB、 600、平衡 ライン出力 : 1、0 dB、 600、平衡
CONT BUS A	: 1系統、50ピンコネクタ アドレス、データ、コントロ ール / DC 24V出力 / EMG / CPUOFF (棟別非常リモコン ユニット / 増設用非常操作ユ ニットとの接続用)
RS-232C	: 1系統 寸法 : 480(幅)×221(高さ)×88(奥行) mm 質量 : 約 4.7 kg 仕上り : AVアイボリー塗装鋼板 マン セル7.9Y 6.8/0.8 近似色

付属品

マイクロホン 1
24ピン接続ケーブル (IF CONT用 約2m) 1
ラックマウント用リブ付ねじ (M5×12) 4
束線バンド 1

保証とアフターサービス (よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

保証書(別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

補修用性能部品の保有期間

当社は、この集中非常リモコンの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼される時

まず電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店が修理させていただきますので、恐れ入りますが製品に保証書を添えてご持参ください。

保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

便利メモ(おぼえのため、記入されると便利です。)

お買い上げ日	年 月 日
品 番	WR-855
販 売 店 名	
	☎ () -

松下電器産業株式会社

松下通信工業株式会社 AVマルチメディアビジネスユニット

〒224-8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎ (045)932-1231(大代表)

N0696-1106 A8QA4226BN